

避難方法

すみやかに行動することはできない。
 家庭内で安全な場を確保することが不可欠です。
 24時間介護が必要なので、本人よりも介護者が避難の体制を知り、つくっていくことが大切。
 避難所の場所がわからない時、誰にどこに聞いたらよいかわからない。また聞くことができない。落ち着いて行動できるか心配。
 車イスで移動のため、緊急時のサポート体制がほしい。地震の時、机の下にかくれるとよい。
 避難方法がわかりにくい。避難の時に誘導してくれる人がいれば助かる。
 避難先は車イスでも使いやすい特別な部屋だった。トイレも近くにあった。保健婦さんもいた。自宅からの避難は翌日、ボートで二階から脱出、特に問題はなかった。
 避難所へ自力で移動できない。介助者が必要。
 避難所の場所がはっきりわかるようにお願いしたい。
 被災時、道路等がどういう状況になっているかわからないが、車イスなので自力では移動できない。
 家から（玄関から）道路に出るまで階段があるので助けがないと出られない。
 私が住んでいる八千代市総務部防災課が用意した防災マップによれば避難先は陸上自衛隊習志野演習場となっているが、どこに入口があるのか、また避難先としてバリアフリーなのか不明である。わかりやすい防災マップがないと災害時の役に立たない。
 エレベーターが止まった場合、避難が困難になる。
 車イスを使用しているため、避難する時に道路の状態が悪ければ移動することが難しい。
 避難警報が出たことはありますが、避難が困難なため、経緯を見ることにしました。
 避難場所はわかっているが、距離があり、普段から自力での移動は困難だし、車イスが使えなければ親ひとりの力では移動することは不可能で不安。緊急時にサポートしてもらえる体制がほしい。
 自力で避難は無理。今年の台風水害の時も、車も動かさない状態だったので、二階へ本人、必要な物を移動させるだけでした。
 避難所の場所まで自力では行けないし、もしもの時はサポートしてほしい。
 電話が通じなくて困った。障害者がいる事を地域の人たちに知ってほしい。
 避難場所が分かっているが自転車しか乗らないので移動が困難である。サポート体制がほしい。今回の災害は私の住所は対象外であったが、町内各所で災害を目撃したが避難は重要である。今年の台風及び大雨の災害の経験を書きました。
 避難所へ家族の人と一緒に行く。
 家が被害を受けた場合、一人の介護者しかいないと避難が困難な場合がある。地域の人に協力を求めることも必要になる。
 近くに避難場所があるので少し安心しています。

車イスを使っていますので、移動は本当に困難になるだろうと思います。
 避難所まで遠すぎて、自力での移動は困難。各自治会あるいは民生委員等でサポート体制を構築しておいて欲しい。
 道路がデコボコだったり、ものが落ちていて平らでない場合、車イスでの移動が極めて困難になる。どうすべきか？
 自転車、歩き
 地区の中学校（歩いて5分のところ）
 徒歩で行く。体が不自由な方を運ぶための車イス牽引車。
 自力での移動ができないために、災害時の避難は助けがなければ不可能。
 トイレなど何もない所へ避難した方が良いでしょう。それとも二階のある家は、上の部屋へ避難した方が良いか迷います。
 避難所の場所がわからない。
 [問題や課題]
 自閉症の人には急な予定変更が苦手な方もおられ、避難とはいえ何故自分の思いと異なるところへ行かねばならないのか、また見通しが立たないことにより緊急避難時にパニックになられることも考えられる。
 そういった状況の中でご近所や地域住民の方がどれだけ理解をもって避難誘導していただけるのか、また家族だけで何とか対応しなければならないのかといった課題がある。
 視覚障害の方や聴覚障害の方に、どれだけ避難場所情報（どこに避難場所があるのか）が伝わっているのか、また避難方法についても地域住民の協力がいないことには安全なルートを通して避難することができないとも考えられる。
 [改善策]
 1. 住民自治会などによる、障害のある住民の把握が必要である。
 2. どのような障害のある住民が暮らしていて、どのようなサポートが必要なのかを普段から知っておく必要がある。
 3. 緊急時に必要なサポートを受けられるような体制作りを地域住民の手で作っておく。（支援を要するひと全て。子ども、障害のある人、お年寄り）
 避難場所まで行く事が困難ある。歩けない事で介助が必要であるが長距離の介助は厳しい。
 階段がある。場所が不便。
 どこに行けばよいのか？誰にたずねればよいのか分りにくい。情報を伝えてくれるスタッフをおく。
 例の通り。
 サポートしてもらえる体制。
 災害時の避難行動が速やかにできない。日頃から災害についての学習をさせる。指定された避難所、連絡先など。
 自力での移動困難が顕著であるために、その移動手段、地域防災組織の編成、避難所での災害弱者への優先対応など。
 被災体験を直接受けていないので良くわかりません。

避難所への移動の際、独自では行けないと思います。障害者が避難場所に行った時に、障害者が周りの人の中でとまどうか心配です。

電動車いすを利用しているので、道路が陥没していたり落下物があったりした場合は通行できない。バッテリーも時間の制約があるので、充電するところがなかったら動けなくなる。言語障害もあるので、混乱した状態の中で、言語障害をどれだけ聞き取ってもらえるか不安。

緊急時に家族だけで対応できない場合、すぐ動いてくれる人材が欲しい。

例のとおり。

小さな音、声がわからない 光や、肩をたたくか、文字で知らせる。

自力で移動が困難なので一人の時でも近くの人に呼びかけられるように、常に付き合いを大切にしている。避難所までの道のりに段差があれば、自宅から到着が不可能。市の広報などで障害者用の避難方法を周知すべき。

避難所へは通常歩いていこうことになると思うが、現実的に普段でも長距離を歩くことは困難です。まして道路が損壊しているような場合は不可能です。結局自宅で待っていて助けを待つしかないと思います。混乱した状態での避難は、足下がよく見えないので危険かなあと思います。

避難所はわかっているけど、自力での移動が遠いので困難。例文と同じくサポートしてくれる人がほしいです。家がバリアフリーでないので、一人では出入りが困難。漢字が読めないの一人で行動しにくい。ふりがな等あると読める。

エレベーターのない住宅の場合、階段では下りられない。視覚、聴覚障害があって、ひとり暮らしの場合、状況が把握できないので避難が困難。サポートが必要。おおかたは介護者がいるので対応できるが夜間は介護者なしなので困る。

みんなと同じ避難場所は気をつかうので行く気になれない。障害者と家族専用の避難所があればいい。

普段からの避難所と自分の関係ができていないと、その避難所に行きにくい。

子供が通う学校とかがこういった場所の時、自分の家族がその学校に行かないとどこに言ったらベストの場所なのかとか、トイレの位置とか、わからないことに不安を覚えます。

避難所の場所はわかっているが自力移動は困難。サポート体制がほしい。

てんかん発作がでなければ避難できるが、出たときに支援者一人では避難が困難。

周囲の異常な状況を察してパニックになる恐れがある。例のとおり。

避難所生活の体験はないが、自分ひとりでどう行動してよいかかわからないと思うので、その点が不安でもあるので、サポートしてもらえたら助かると思います。

例と同じ。

避難所の場所により早急な移動が困難。

家族が健康なうちはよいが、障害が重く自力移動は困

難な場合、助けに来てくれる必要があるか安否確認と一緒に聞いてくれて、必要な場合はすぐ来てほしい。

今のところ自力で行動できているが歳を取るにつれて悪くなっているのでサポートしてほしい。

避難場所が近くの小学校または中学校だと思いたってはつきりわからない。

今のところ、少し指示を受ければ自分で行動ができます。

自分なりの移動ができるので緊急時にはサポート体制があれば良いと思う。

家族がそばにいる場合はいいが、一人の時に不安がある。

家族と共に避難所に移動することができる。

親が老年になった時の心配。サポート必要。

家族が留守の時に助けてほしい。

例のとおりです。

緊急時になると、パニックになるおそれがあるので、サポーターは必要と思う。

家族がいる場合は介助してもらえが、1人の場合は困難だと思う。

自力で移動は大変だと思う。車が電動車いすが通れなければ家から出られない可能性はある。

(避難所が)わかっても自力での移動が困難。緊急時にサポートしてもらえ体制がほしい。

避難所へ行ってもコミュニケーションが取れないので、避難所へいくことをためらう。サポート(要約筆記者)配置があれば安心できる。

被災した際には、その場へいるよりも避難所へ避難するときに事故にあうことが多いということを知ったことがある。健全者よりも動きや情報収集に制限のある障害者の方が、移動に際しての安全や配慮が確保されるべきだと思う。

小学校に避難したが、多人数で障害者の存在に気付かなかった。他の避難場所があったのだろうか？

常に避難場所がわかっていないと、災害時に避難できるか心配。しっかりわかっていないようで。

災害時は道路や周辺の状況が変化する場合もあり、普段自力で移動している障害者でも移動困難になる場合もある。やはり日常的に隣近所とのつきあい、町会とのかかわりを持つなど、地域住民の一人として存在する生活をしていくことが大切では(緊急時、短時間のうちに声をかけてくれる関係づくり)

本人に教えてはいるが家族の者がいない時には自力での移動は困難。

みんなと同じ避難場所は気を使うので、行く気になれない。障害者と、その家族専用の避難所があればいい。

避難所まで行けない、多分自宅が無事ならばしばらく残ると感じます。

ワーファリンを服用しています、もし避難所に行く過程で怪我をしたら血が止まりません。

電動車いすもありますが、地震で段差ができれば使えませんし、雨でも乗れません。

地震などの場合、普段通り慣れている道であっても、道路の破壊や建物の倒壊等で様変わりしてしまう恐れがあるので、視覚障害者は一人で避難場所まで行けるか

どうか不安です。

また、知らない場所での被災という可能性もあり、ほんとうに不安です。

避難情報が遅れてしまう可能性がある。ラジオ等では、広域過ぎて、地域の避難情報が届くのか不安。

身体介助が必要な世帯もあるだろう。

学校は段差があり使えない。スロープがあってもたいがい一カ所しかなく複数の出入りにスロープを設置してほしい。

古い建物はそこ事態が被災する危険性がある。

多くの障害者は、単独で避難所までの移動は難しいと思うが、田舎の場合はサポート体制が確立されていないのが心配だ。

R C 構造のビルの4階に住んでいる。高潮による浸水には避難しない。

避難して来る人があれば受け入れる。地震の場合も火災が起きない限り避難しない。

阪神・淡路大震災にも耐えた建物であるから。止むを得ず避難の場合はエレベーターが動かないので自力では困難。隣が警察署なので平素から救援を依頼しておきたいのだが、警察側にもビルのオーナー夫妻が車いす常用の高齢者との認識はある。

T V ・ラジオ・電話の何れかが通じる限り、頼りにしている。それが切れた場合は警察無線による情報を聞き、警察無線による情報を聞き出せないものかと思うことがある。

ジェーン台風以後避難生活の経験が無いが、一番の困難はトイレの問題と思っている。出来ればポータブル・トイレを携行して避難すべきと思っている。

車イス用トイレを障害者専用で作ってもらえる体制がほしい。時間を決めて排泄しているため、避難をする必要があると団体生活になるので行きたくなくなったとき、自由にできなくなる場合もある。

緊急時にサポートして欲しい。難聴なのでお知らせできる体制がほしい。

大災害の当事者としてその真っ只中に置かれたら、ましてソレが闇夜だったら健常者でさえパニック状態に陥るであろう。他人の介助どころではなくなるだろうし、行政としてもやるべき事象が多過ぎて個々への援助は期待するほうが無理であろう。

そこでどうしても私が「災害時障害者市民防災まちづくりアイデアコンテスト」に応募したアイデアに帰結する。私のアイデアが100%生かされる為にも早期に「障害者自立移動支援システム」が完備されることを希望する。

マンション住まいでエレベーターが止まる。

気管切開し呼吸器装着のため自力(家族)では移動が困難、非常時の移動となるとA L S 患者を理解したサポーター二人が必要でその体制を作って欲しい。避難所までの交通機関がない。福祉タクシーを使える制度を作るべきである。

独居の高齢者・障がい者等自力避難が困難・緊急時にサポートできる情報と具体的な支援策が欲しい。

重度障害者が避難できるような避難所はそもそもなかった。また、中越地震の際は親と一緒にだったし、避

難するまでいかなかったのでもそれほど困らなかったのですが、もし1人だったらと考えると今でも本当にぞっとします。ですから災害時に1人で逃げるのが困難な人のところには、必ず誰かが駆けつけて避難・誘導の手伝いをするという仕組み、特に重度障害者のところにはしっかりと介助ができる人が駆けつけられるというような仕組みを作る必要があると思います。5階にすんでいるからどう避難していいか自分でもわかりません。

療護施設利用者にとって、施設が被災したらどうするのか？どうやっていくのか？をあらかじめ知らせておいてほしいと思う。

まず家からの脱出、避難所に行くまで、避難所での場所の確保が車椅子の為自力では困難。せめて役所からの指示、サポートがほしかった。

転居して1年以上になりますが、緊急時の避難場所がわかりません。なにかお知らせにあるかと思いますが、確認していないのですが。また自力での移動も限界があると思いますので、サポート体制があれば心強いです。緊急時(またそれ以外でも)に連絡をとれるC I L とか近所にはないかと思いますが。全国C I L マップなどがあれば、普段から連絡をとることもできます。マップを作成し、障害当事者に配布するというようなことをしてもらえればと思います。

災害時、車イスで避難所まで行けない。

自力では移動ができないのでボランティアの人がたくさんいてほしい。

障害者と高齢者のみの世帯であり、行政側からの連絡がほとんど無かった

自力では移動が困難。緊急時にサポートしてくれる体制が欲しい。

障害者当事者の横のつながりに加え健常者との繋がりを普段より構築していることが大切。

各障害に対応する人材や手段の不足によりまず災害弱者が更なる被害をこうむる。

白杖がなければ歩くことができないし、家の状況がどのようであるか判断できず、移動できない。

また避難所にいったとしても、どのような移動ができるのか理解することが難しい。配給に関して、視覚障害はアナウンスで聞いたとしても、移動が困難で難しい。

聴覚障害はアナウンスが聞き取れないために人に移動にいちいち左右される。

車椅子利用者等は見えていても、聞いていてもいくことが困難である。ただいづれも見えているので人をお願いしやすい。

車いす利用者であるため、道路や通路の状況で移動できなくなる。単身生活であるため、非常時の人の手の確保が不明。避難場所のトイレや洗面が不明。

自力移動が困難、家族が老いてきている事でなおのこと負担が大きくなっている。

車椅子で逃げられないので助けに来てほしい。

愛知は『東海地震』が控えています。両親と住んでいますが、昼間は一人でいる事が多く、イザとなったら避難所までの移動に不安がありますが、その場合は家族

が戻るまで安全な場所で待てと言われていました。近所の人でも私の事はよく知ってくださるので、あまり心配はしていません。

<例>と同じ。

当事務所はビルの一階にあるので、階段などの問題はないが、出入口が一つしかなく、窓からの避難が難しく、出入口がふさがりやすい状況になると困難。

車椅子を利用しているのに、災害が起こると自力で移動が困難。一人暮らしなので災害時に確認してもらえない人がいない。

被災体験がないので、想像にすぎませんが、私の場合、心肺機能が弱いので緊急時に避難所まで全力で行けないうらやまを感じています。

マンションの9階に住んでいるため、地震や火災の時に1階までの移動が困難。エレベーターがとまったら・・・車イスのため、いざという時自力でのりうつれない。

緊急時にサポートしてもらえ体制を整備してほしい。日中しかヘルパーを入れていないので、夜間時のことが心配。

足が不自由なため、緊急時は特に移動困難になる。サポート体制の確立。

避難所の場所があることは、わかっているが、自力での移動が困難。緊急時にサポートしてもらえ体制が欲しいと思う。

避難所は狭すぎてそこで過すことはむりだと思ふ。たぶん、車の中で過すと思ふ。

手動車イスになると思ふ。玄関ではなくすぐ公道につながるルートを確認できると良い。

車を運転するので車または手動車イスと杖（電動車イスも持っているが、バッテリーが切れると困りますよね）

自力で移動できない。助けを呼ぶことも難しい。6階に住んでいるので消防の人や近所の人に存在を知ってほしい。体が変形していたり、チューブをつけていたりして、どうかかえていいのかわからないと言われる。そんなことのないように日頃から知っておいてほしい。

避難所までの経路を安全に移動できるか、車イスで行動できるか。（人ごみの中、旅行先、外出先、周りに人がいないとき）家の中から外に出られるか？

電動車イスでは動けないので、家が崩壊していなければ家で待機する。

家にいたときはまず家のドアを開けて避難経路を確認する。そのあと今の状況を把握する。事務所にいたときや1Fにいたときはすぐに机の下に隠れる。その後状況の把握する。あともし会議で3Fにいたときは自分の中で覚悟を決めたくらうで、揺れがおさまるまでじっとしている。そのあと状況の把握。

車イスに乗った状態で移動する。

周辺の状況が変化し単独歩行が困難になる。

車イス利用のため、道路に段差ができたり、洪水になった場合は家から出られない。救援を待つしかない。

最初少しでも頑丈な大家さんの所に90歳の祖母と脚の悪い母と3人で寄せてもらっていたのですが、妹の

彼氏が車で迎えに来てくれて助かりました。

障害者用のエレベータ、スロープなどは通常の通路よりも遠回りする形になる場合がほとんど。避難時には障害のある方、高齢者など、移動が困難なものを優先するという意識が大切だと思います。

自力で移動することが困難な障害者の場合に、どのように避難させるか？

災害の際には皆、自分のことが一番なので、障害のある人をどのようにサポートしていくことが課題。

交通弱者といわれる高齢者や障害者等が避難場所に安心してたどり着ける避難路のアクセスを考えて欲しい。地震のあった日は、日曜日だったので、施設での避難に問題はなかったが、その後消防署の方に来ていただき、防災訓練を受けた。

被災当時、単身で症状も不安定だったので、地域とつながり（とくに自治会）が全く無く、心底淋しくつらい思いをしました。15年も住んでいたのに地域では友人も無く、というよりそれを避けていました。以前より精神障害当事者会を通じて「小学校区に一つの（障害者のための）給食施設を」と訴えており、そこでは「寄り合い所」も兼ねる今で言う地域生活支援センターのようなものです。私は幸い、西宮の福永年久さんが代表を務める「六甲デイケアセンター」という「たまり場」で「避難所暮らし」をさせてもらって一命をとりとめた（大げさではなく）経験があります。自治会とはつながりたくない人のために、今より「たまり場」をふやすべきですが「自立支援法」のため、難しくなりました。

被災はしていませんが、被災者への救援活動をした。聞こえない人への情報保障を考えるべきと思う。

基本的に、どこへ行くにも移動が困難。人の手を借りないと避難できない。

避難所までの移動手段困る。

両足切断のため、義足を装着する時間があるか心配です。

避難所の場所は知っているが、そこまで一人で移動することができるか心配。

平気そうだったら外に出る（危なくなさそうなところにいる）。

一人で生活する人が多いので、緊急時にすぐ来てもらえるかどうか不安である。

肢体障害者にとっては移動面でのバリアの問題、内部障害者にとっては、たとえばオストメイト等の場合、パウチ交換等の処理の問題から、オストメイトトイレがどこにあるのかといった問題や、災害によって停電した場合などの問題。聴覚障害者にとっては、どこに避難すればよいか等の避難情報をいかに伝えるかという問題。

すぐ近くに市役所、小学校、中学校等があるが、事務所が古く、逃げる間もなくつぶれそう。路地裏のため、救助も求めにくい。

避難場所は遠く、車で移動できないとき、移動することが大変です。ここは阪神大震災の時でも地盤が固く、商品のタバコですら棚から落ちませんでした。みのお川が下に流れていますが、坂になっているため、下の

方に流れていきます。

知的障害者は自立して一人で生活していません。親または兄弟が、日常生活を全面介助しています。非常事態の時は現実に起きていることが理解できないので混乱し、パニックになります。事情を説明し、納得させる時間がかかり、まず避難すら難しいです。日常的にも家族以外の専門のサポーターが必要です。

各個人が避難所がまずどこかわからない。両親が健在の家庭はそれなりに対応すると思うが、高齢であったりすると避難までのサポートがどこかで必要となる。道路が崩れたり、でこぼこになったり、塀や建物が倒れて通行不能になったりします。健常者でも建物の中に閉じ込められたり、移動が困難になります。あらかじめできることと言えば、どこにこのような障害者がいるのかを把握しておくことくらいです。

今回の場合、それぞれ自室にいたのですが、いつも親が思うことは、避難所にはいられないということです。私の場合、(娘は)女性34歳の知的障害者です。家以外では寝られず、パニックで騒ぎ、人の物も全て理解ができず、触ったり食べたりします。しっかり手をつないでいないといけなないので、災害にあった時は、自分の家を少しでも直し、庭にテントを張って過ごすしかない、夫と話しています。障害者とその家族だけの避難所があるといいですね。

避難場所には自力で行けないし、避難場所が小学校のため、障害者用トイレがないために、避難してもトイレに困るから避難しない。

レスピレーター(人工呼吸器)のバッテリー確保をしながら避難は難しい。

避難所の場所を知らない。避難先が小学校なのでそこまで行けない。

難病患者は大変、歩行障害を持っているが、体力は健常者よりも弱い。

避難場所まで行けない。パニック状態で人が助けてくれるか心配している。

寒い避難所で過ごすのは無理がある

車いすの人は自力での移動困難。また、賃貸マンションでバリアフリー化が進んでおらず避難に時間がかかる。パニック障害に陥る可能性がある。

情報保障についてが一番大きな課題だと思います。

年間2回の避難訓練を実施し、その時にそれぞれの役割、避難経路、場所などを繰り返し練習しています。作業所通所時はスタッフが対応できるので問題ないが、避難所がどこにあるかわからない人が多い。知っていても緊急時は混乱することが考えられ、場所までの移動が困難。

常時人がついていないとどこへ行くのか場所がわからない、また移動中どこか違うところへ行ってしまうことがある。

移動中不安があり、パニックなどになることがあったり、動けなくなることがある。

日常的に障害のある方々の暮らしている地域でのコミュニケーションや避難のシステムの中に障害のある方たちの避難についての取り組みがされていることが必要。

地域とのつながりが薄く孤立しやすい。当事者のみでの避難所には限界があると思う。つながりをサポートできるセンターが必要。

情報がほしいのが第一。災害時に避難場所等の書いたマップも作成。

自力での移動が困難な人に対するサポートの充実をしていただきたい。

避難所の場所はわかってはいるが、利用者の方を一度にみんな安全に移動することは難しい。サポートしてくれる体制がほしい。

知的障害者をもつ人の場合、場所や人が変わるだけでパニックを起こす場合が多く、避難場所については、日ごろ防災訓練を繰り返し行なうことが望ましい。

経験がなくよくわかりませんが、障害種別によって変わってくるのではと思う。いずれにしろ、重要と思うのは、隣近所の人と顔見知りになっておき、いざというとき助け合える関係を作っておくこと。

精神科で出される薬は非常に心身に影響を及ぼすものが多く、行動を制限されることも多く、非常時に身動きとれないことが多く、生命にかかわります。

常時、車いす利用者だけでなく、自力歩行を普段はできている方でも、災害の状況によっては自力移動が難しくなる。同様に知的、精神、視覚障害者なども自力移動が難しい。特に近隣の方によるサポートが必要となる。

聞こえないことで、指示に従えない場面もある。聞こえに支援(サポート)して下さる人が身近にいれば行動がとれる。

集団生活になじめない。多くの人中にいと、病状の悪化の時の対処。

薬、水、医者の確保。

サポートしてもらえる人と日常的につながっておくこと(道路、階段等の状況で物理的に独力での避難は困難)。

視力障害のご夫妻Sさんの場合、自宅が狭い道路の奥にあるため、軽自動車ややっと通れる程度。肢体不自由もあるため、避難の方法に細かい配慮が必要。

施設内で災害にあった時、前庭に避難するように訓練もしているが、実際何人かがパニックになれば、それに影響される人もいるだろうと思う。なるべく不安を与えないように職員の冷静さが求められる。

車イス利用者の安全確保とサポート体制の確立。

特になし

自閉症の人がこだわりの最中であれば、なかなかこちらの意見を聞いてくれず行動に移せない。

当施設の避難施設は、階段2箇所と高低差利用した通路があり、職員の誘導により安易に可能であると考えている。近々に兵庫消防署を訪ねて避難訓練を実施の予定ですので、より理解してもらえると期待しています。車いすへの移動が困難。

エレベーターが停止した時の移動方法。

知的障害者の人たちには絶対にヘルパー、サポーターがそばにいないとだめ。

震災時未開設だったので書けません。

避難所になっている校区の小学校は、校区のはずれに

あるために遠い。近くの体育館の避難所まで徒歩10分かかるが、車イス2名のメンバー、そして緊急時のパニックに徒歩可能なメンバーが座り込む可能性等、様々な状態を想定しての避難方法を考えねばならない。作業所から避難場所は近くに指定されており、移動には車イスの方1名を除き、今は問題ないと思います。車イスの方の移動は車での移動になると思います。作業所利用者は現時点では大半保護者が健在で、避難移動には心配なかった。でも将来を視野に入れた体制づくりが必要だと思います。

今回の水害では思いもしない人、団体、事業団等の見舞金、支援物資・ボランティアの協力をいただき、復興も順調にすすんでおります。今少しで平常活動に戻れるようです。本当にありがたく思っております。私共自身、助け合いの環の一員になれるよう。

あわてると薬を忘れる。薬の名前を覚えているか？病院の機能が働くか？カルテがあるか？

一人暮らし、GH(グループホーム)利用者の方々が緊急時の場合、どうしてよいかわからないと思う。地域での避難訓練の機会を増やす努力を自治体ももっと丁寧に実施すべきだと思います。

私達呼吸機能障害の在宅療養者の多くが、在宅酸素療養者で避難所の移動は(携帯用ボンベ・重さ3kg)を必要としますので、告知状況について酸素供給業者に周知できる方法を考えてほしい。

特に独居の場合は、自力避難が困難で完全サポートがどのようにできるのか、充分事前配慮を願います。重症患者に対しては、車イス使用者も酸素供給を受け、徒歩可能者と同様にサポートが必要ですができることならば、最終的には専門病院に入院することになります。

移動の困難と自分の安否を人に知らせることすら困難である。

日頃から地域や消防関係に自らの存在を知ってもらい働きかけや、いざという時、頼りになる人間関係を築いておく。緊急時に家族と集まる場所や施設の確認、防災上役立つグッズの情報を収集しておく。

携帯電話、白杖、常備薬、通帳等を手もとにおいておく。精神障害者の場合は病院への依頼心が特に強く、被災者の心のケアに病院は大きなウエイトを占めます。緊急時に医師との間に立つSW等の存在が重要であり、更に普段からの地域の民生委員の方等とのかかわりを行政と一緒に蜜にしてほしい。

一人暮らしの高齢の難聴者は情報を伝えるシステムを平常より行政が考え取り組む必要がある。

当団体には、自力での避難所への移動が困難な重度障害者が多い。緊急時には近所との日頃の関わりで随分異なってくる。消防署や役場に登録していても、先日の宮崎の水害の際は、避難勧告の中、消防署や役場が混乱していて、何回電話しても救助に来てくれなかったという事例があった。近所に迷惑をかけられないという気持ちと、登録しているので大丈夫という気持ちだが、避難のタイミングを遅らせてしまったらしい。日頃からの近所付き合いの大事さを改めて感じた事例だ。エレベーターが動かなくなったりした場合、避難でき

なくなるので、そのような建物を注意しておく必要がある。

大きい地震が発生したときは、福祉作業所を開所していない日や時間帯だったので、作業所での避難はなかった。

避難場所に十分な酸素ボンベや水分が必要。薬は各自持っていて酸素は緊急に短時間必要となる場合がある。人工呼吸のできる人が必要。

多分地域の避難場所には道路崩壊などで行けないと思う。何を根拠に避難場所をこしらえてあるのか不明。二分脊椎症児・者は下肢に障害を持つものが多く、移動が一番に影響すると思われます。移動ができて、受け入れてくれる施設があるかというのも不安の1つです。緊急避難場所の指定を受けた建物の設備(バリアフリーや身障用トイレ等)にも関心を持たねばならないと思いました。

避難の際、身体的動作に差があるため、時間(避難場所への到着)のばらつきがある。サポート人員を増して協力するとか検討が必要だ。

避難勧告が出て自力で外へ出られない。身近にサポートする人材を確保してほしい。

例文にあります通り、自力での移動が困難になる場合が一番になるように思います。緊急時のサポート体制をしっかりと普段から確認しておく必要があるように思います。

障害がなくとも避難所に指定されているのは小学校だけだし、坂道を小学校まで下るのは大変だと思う。上の方にも、もう一ヶ所くらいは必要だと思う。それにその小学校がちょっと危険なような気がします。住宅がどんどん建築され、住民の増えていることだし、毎年見直しが必要なのではないでしょうか。

災害発生が通学、通勤、帰宅時間帯の場合、知的障害者が情報入手や避難方法に適切な支援がなされるかどうか？

要支援者側にもヘルプカードの携帯も必要であり、支援者側の想定も必要であろう。

家族に複数の同病者やまたは他の障害を持つ人のあることが想定されるので、複数者のサポートを求めたい。改善策として地域住民へのアピールが必要と考えるが、個々の考え方が優先される。

(1)車イス障害者は、地震が発生した場合は、その場を自分の力で動く(避難すること)はできず、助けを待つのみです。(2)車いす使用障害者は、たとえ車椅子に乗れても、障害物があれば一人では移動できません。(車いす障害者一人に対してボランティアさんは最低でも2名必要。2名でも障害物が多い場合は、移動は困難)。

肝障害の重い患者の場合、移動が困難になることがある。(肝疾患による)

継続的な医療が提供されなければ、肝不全による死に至ることがある。

エレベーターが止まると降りられなくなる。介助者一人で高い所から降りるのは不可能なので、とにかく人に来てほしい。

視覚、聴覚障害者も普段は一人で動けても、このような

ときは状況が変化するので助けが必要。
人材を送る場所がほしい。そこに連絡すれば、誰かがいて対応できるような組織がほしい。

避難場所の知識、避難する意味『避難』という言語から連想されるパニック、情緒不安定などそれらがおきた時の周囲の人の対応。

聴覚障害者は障害の特性から、必要なときに必要な情報が得られない。情報の確保が最優先課題である。

<自薦対策として>

聴覚障害者の場合、地域との付き合いが乏しいので、町内会・自治会で行なう震災訓練への参加を促進する対策が必要である。

隣近所や町内会・自治会の方々との日頃の交際は緊急のときに役立つので、聴覚障害者世帯が近隣との交流を深められる対策が必要である。

避難場所と避難ルートの確認、非常持ち出し品の用意等、初歩的な震災対策についての聴覚障害者向け講習を地域ごとに行なうことが望ましい。

一人で生活している重度の身体障害者は、緊急時に車イスに移動する手助けが必要です。精神障害の方は特に夜間服薬している方が多いので、薬の影響があり、災害に気がつかない場合がある。精神障害の方は自分が精神障害であると言いつけられないので、周囲の人に気づかれずに放置されることも考えられる。

避難経路の確保が難しい。(電柱など倒れたり液化など、道路の幅や状態で車イスを利用することは困難) 抱きかかえたとしたら人手が多く必要(一人につき3~6名)また、担架の用意も必要。

わかりやすい言葉による説明が欲しいです。情報について(状況なども)

状況判断ができず、不安が増すのでは、必ず誰か腕を組んだり声かけをする人が必要と思える。

家やマンションから脱出できない状況が予想されます。ドアが開かない、エレベーターが運転停止になるなどが考えられます。このような事態では、救援がスムーズに行われているとは思わないので、自分がここにいることを事前に把握してもらっておくことが大事だと思います。必ず助けに来てもらえる体制づくりが必要です。

孤立してしまうのではないかと。避難場所がわからないのではないかと。連絡がとれないのではないかと。地域のつながりを濃くしておくことが大切

避難場所は同グループで近隣の生活支援センターとしているのでわかりやすい。

建物がプレハブで防災設備ではない。

肢体不自由児者の場合、自力で動けない。車イスなどで動けてもバリアが多くて危険。

札幌市の場合、町内会単位以外では、避難所、避難場所までの移動の訓練が行われていないように見えます。まず、この点でしょうか。日中、休日、それぞれでそれぞれの方法を。

避難所の小学校は近くにあり、自力での移動は可能だと思われるが、すみやかにいけるか不安である。

避難所への移動が困難だと思います。ヘルパーの人が必要。

仮に家にいたとして、どこにもいけない。緊急時には自分のことで精一杯でサポートはわりなのでは。

避難といわれても、道がどうなっているか分からないから、外に出れない。

自力歩行可能であっても杖歩行がほとんどで、地震後の道路を避難所まで歩行するのは大変なため、自家用車内で過ごした人が多かった。車イス利用者が当日ひとりで家庭にいた会員は近所の方に救出されたがそれまでに2時間以上かかっており、緊急時のサポート体制に問題があると感じた。

特になし。

施設自体は、10月23日夕方は休業であったため、それぞれのメンバーは自宅で被災した。私どもの施設利用者は幸い全員が家族と同居している方ばかりであったため、それぞれが家族といっしょに行動し、避難所へ避難したり、車中ですごしたりと様々であった。

障害者(特に独居障害者)について、避難の際、地域でサポートする体制を整えていただきたい。現在、地区の民生児童委員にも、障害者宅についてはプライバシー保護の観点から情報が与えられていません。プライバシーと命とではどちらが大切であるかを考え、見直していただきたいのですが、なかなか前進しません。避難生活は近くのソーメン組合に移動する。

避難所があっても、そこまで移動するための介助者が足りない。自力での移動が困難な方が多く、緊急時にサポートしてもらえる体制がほしい。

同居の方も車に乗れず、避難する際には歩いていかなければならない方がいるが移動が難しい。近隣の方との普段からの関係作り、災害時のサポート体制の確立が必要であると思われる。

機敏に動けないのでサポートする人が必要。避難所をその都度知らせてほしい(スピーカーでも)

市の定める避難所は遠すぎて、危険がともなうため、独断でリハビリセンターにかけあい、緊急時の避難場所はセンターにて確保しました。

知的・身体障害の人が通所しているが、ある程度軽度の人が多いので声かけで二人組位で外に出る等、知的人は完全にサポートしなければいけないので指導員がついて・・・とは話しております。

避難場所、避難の方法をあらかじめ知っておき、普段に訓練をしてその場所・方法を覚えておかないと災害時に動けないと思う。

避難所の指定はされたが、災害の状況によっては、道が閉ざされる。障害者サイドも、普段から、近所付き合いとか、町内会とかの連携など『存在を知られている』ことが大切と思う。

道路状態や建物の倒壊などにより、車椅子(ストレッチャー)での移動は困難も予想される。ストレッチャーを持ち上げて移動しようとするれば、大人6人は必要。日頃から近くに手助けしてもらえる関係を築いておくことも必要。

人工呼吸器、モニターなど電源を使用する機器類があるため、台風など水害時の避難には風雨対策が必要。
問題点1.自力で避難できない 2.高齢世帯および単身の場合、避難所情報入手が困難

改善策 支援サポート体制、および連絡網を確立。
緊急時にいち早く助けてほしい。いくところがない人もいると思う。そのあたりを徹底してほしい。

避難情報

普段から近所の人たちと顔見知りのため、今回は問題なし。

情報を聞いても行動判断が全くできない。保護者または近くの他人に頼るしかない。

音声だけでも掲示だけでも難しく、避難所その中に音声式電光掲示板などの機器が必要。あるいは障害者対応できる人材の地域派遣または避難所組織の確立により対応する人材の育成。

耳や目があまり良くはないので山や川を自分の目や耳できいたりして、主として活動的に移動します。
(幻聴がある人は)急に声がじゃまをして聞き取れない。

地震の時、地面がわれてその中にはいらないように気をつけるとよい。

利用者の連絡網を再点検した。

避難するにも準備や動きが遅くなり、時間がかかるので無線機設置で早めに情報をほしい。

普段から顔のみえる関係づくり。近所との連携をつくっておくと情報がえやすいと思う。

外での物事に対する興味が薄く、避難勧告に気付かない恐れがある。個別に知らせてほしい。

テレビとかはついてない時があるので、スピーカーでの伝達とか、連絡体制が必要。

電話やメールによる連絡が難しくなるとされる。

介護者との連絡が取れるか不安。

本人が情報を入手することは難しい。必ず介助者が必要。

家の近辺の状況の変化を確認することが難しい。

誰に聞けばよいかわからないので困る。やはりボランティアさんとかにたよらないと自分だけではどうしてよいかかわらないと思う。

地区で連絡しあう。家族と連絡しあう。

災害時の情報は自動車のマイクで知らせても聞こえないので、聞こえない人にはFAX等文字で知らせるシステムを平常より作っておくこと。

自分が求めている情報がどこで手に入るのかすぐにわかる手段欲しい。

車椅子を利用しているので、電気のブレーカーが落ちると戻せない。電気がつかなくても使える携帯電話で情報入手できるサイトを作りたい。

避難場所に安全に到達できる避難情報を知りたい。

もし電車に乗っていて、途中で止まってしまったら…。地下街にいたら…。などなどとても逃げ切れないだろうと思ってしまいます。

へりからの情報提供。自治会ごと、徒歩による拡声器にて情報提供。居場所を知らせるためのホイッスルを障害者に配布しておく。

テレビ

ラジオ・テレビのニュースでも理解はできるが、情報は

キャッチすることができても、理解したことを行動に移すことはむずかしい。携帯など、押せば居場所が他の人にわかる物が必要です。

携帯電話で連絡を取り合う。待ち合わせ場所の確保。緊急時に連絡が入る装置を自宅内に常設できればいい。障害者が避難情報を聞いてもどこへ行けばいいのかわからなくなる場合があるので心配です。

とくに問題は感じない。

耳が聞こえない人の連絡手段。メールやFAXの設置。漢字がわからないので文章の情報だと意味がわからない。いろんな障害があるので、その人に合った情報入手の仕組みを作ってほしい。

地域で災害情報をラジオの有線放送などを利用して流していくべき。の道は事故があって通れないとか。

は火災があるので避けてくださいとか。

テレビ、ラジオ等近くにあるとよい。

災害状況を教えてもらえて、対策(今、どうすればいいか?)などを相談できる窓口をつくってほしい。

例のとおり。

携帯電話をもつ人に対して、メールによる情報提供するという方向で話が進んでいるが、高齢者や携帯を持たない人に対しての情報提供も同様にすすめてほしい。なし

携帯メールによる情報入手の仕組みを作ってほしい。

電光掲示板の小型(ダイオード)で携帯便利にして。地域での連絡員の設置。

近所の人たちと行動したい。逃げるときにラジオをもっていきたい。

聴覚障害者は電話はもちろんできない。電気が停電するとFAXも機能しない。マイクでの避難勧告などはもちろん分からない。携帯メールを持っている人が少ないが、会の団体長などには連絡できるようなネットワークを作る。(会に入っていない人は把握できない)

障害者の夫婦なので、家の外に出ることも困難になった場合、避難勧告が屋外で伝えられても、なかなか家の中にいる者まで伝わってこない。地域で障害者のすんでいる家を把握しておいて、災害時には特に注意して災害についての情報が伝わるようなシステムを作っておいた方がいいのではないかと。

掲示板に行かないともらえないのは、足の不自由なものには問題だと思います。避難所の環境にもよるが、情報は必ず紙にして渡してほしいです。

そして、短い言葉で書き記してほしいです。長文でしかも小さい文字はやめてほしい。

TV、ラジオがない時、情報入手困難。

知的な障害をもつ人の場合、一人での情報の収集、判断が難しいので、周囲の人の助言が必要。一人暮らしの場合は緊急時の連絡網、自治会 市への体制が必要だと思います。

自治会に入っているの、避難場所の一枚ものプリントや連絡先のわかりやすいものがほしい。

停電時にラジオしか使えないので苦労すると思う。携帯が使えない身障者もおられるし、バッテリーがあがるとつかえない等、まだまだ未整備の面が多く、一人一台ずつ災害用に知らせる機能のついたソーラーみ

たいな携帯メールがあればと思う。被災者の一方通行のみの連絡でもよいと思う。

下肢障害なので、情報の入手に特に困難はありません。拡声器で知らせていただければ助かります。

[課題]

視覚障害の人には普段から回っている回覧版では確認のしようがない。

マンション暮らしの人にも、マンションが町内会に入っていない場合等もあり住民に必要な情報が行き渡っていない可能性がある。また障害のある方にはいっそう情報が行き渡りにくい。

[改善策]

携帯メール、拡声器、避難場所への案内板(絵で示されているもの)等を充実させる。

全戸配布により避難場所や困った際の情報発信基地への連絡先等の案内をする。(視覚障害の方には点字のものも必要、自閉症の方や知的障害の方には振り仮名付の案内、絵)

避難命令が出た時、それを受けて直接行動をおこしたらよいのか迷うのでそのサポートをほしい。

字が読めないのでサポートしてもらえる人がほしい。

知的障害者が地域で一人ぐらしをしている場合、避難情報を伝えてもらえる人の確保。

情報入手については、問題なし。

避難情報等知らされても良く理解できにくいとします。障害者にわかる言葉で伝えて欲しいと思います。

先導者がいれば、皆大丈夫避難できると思います。がそうでないとき、地域の方の協力があればいい

携帯メールで避難場所やそこに行くまでの危険は箇所を知らせてもらえればありがたいです。

情報があってもだれかが知らせて言ってもらいたい。

避難勧告等が出て自力で早く避難ができない。歩くのがおそい。

特になし

避難勧告が出されても、一人では意味がわからない。連れ出してくれる人が必要。

早急な情報の提供が必要(音声告知放送)

心臓に障害を持っているため体力がなく、うとうととしていて、防災無線の音声に気がつかない。もっと頻繁に(5分置きくらいの間隔)で知らせてほしい。また、危機感を持つような避難勧告をしてほしい。

特になし

例の「携帯～」の通り

TV・ラジオ・電話の何れかが通じる限り、頼りにしている。それが切れた場合は警察無線による情報を聞き出せないものかと思うことがある。

耳が聞こえないため、避難勧告等が拡声器などの音声で知らされてもわからない。携帯メールによる情報入手の仕組みを作って欲しい。

耳が聞こえない方、耳も聞こえず下肢にも障害があり自力による情報収集が困難な方への課題に対する対策は知らされていない。コミュニティ単位の救護策を検討する機関がない。

情報入手については、わたし個人にはとくに問題あり

ません。

避難場所の普段の位置確認及びサポート体制。

停電になってテレビが見ることができない時は困る。電池使用のラジオなどを備えつけておかなければと思う。

ラジオか携帯電話で避難所に障害者用の設備が整っているかどうかをニュースで伝えてくれなかって困った。携帯社会とオンラインを作してほしい。

張り出し情報などの掲示を確認しづらい可能な人は、事前に、警察、消防、電気(停電)、ガス(ガス漏れ)に届けておく

特になし(あくまでも自分の場合)

具体的な方略ではないですが、やはり地域で暮らす中で、障害者と健常者の間に隔たりという、意識の問題に還元されると思います。インフラやシステム以上に、シンプルな配慮や思いやりが本質的だと思います。

当センターの場合、それほど問題はないように感じるが、携帯用ラジオなどの準備や近くの避難所等がバリアフリーかどうか調査しておく必要性はあるように思う。

街の迷子のお知らせに使っているスピーカーでたくさん情報を流してほしい。

当日は避難情報も何もなかった。

中越地震の際、緊急避難的に重度障害者を受け入れてくれる施設などの情報が、震災後しばらくしなないと出てこなかったし、その施設への緊急避難の交渉も、すべて本人に任されていた。やはり災害が起きる前から行政は緊急避難できる施設などをリストアップしておく、何か起きた際には、スムーズに避難できるように調整をしてほしいと思う。

自治体によって情報提供の方法が違うので一概には言えないが、地区ごとにスピーカーで情報を伝えている自治体も多いと思いますが、家の中で窓等を閉め切った状態では、内容が殆ど聞き取れないので、各家内に無線機を設置して欲しい。

情報を出前してほしい。

視覚障害では、ラジオ。ラジオ局から、マクロな情報が伝えられると良いんだけど・・・例えば、何時何分、我孫子市防災本部より、地区の方は、小学校へ避難してください。

耳が不自由じゃなくとも、家で窓を閉め切っていたり、風雨の音が強ければ、防災無線の情報は聞き取りにくくなるので、確実に危険な情報を伝えるような手だてを確立してもらいたい。

また、日頃からの町の広報なども、小さな町では活字のみの配布(テープなどはない)ので、日頃からの防災意識も、周囲の人たちに比べて低いような気がします。内部障害は、震度などの情報に関しては普通の人と変わりなく知る事が可能ですがもし、避難するのであれば医者や薬のある場所になんとしても行きたいので、医療の情報を求めます。

私の住む地域は、消防団の組織も機能し、地縁関係がしっかりしているので余り問題はないと思いますが、高齢化の進む地域や、隣近所の関わりの薄い地域では障害者の方が取り残されそうです。個人情報保護も、

壁になっているのではないのでしょうか。民生委員や消防団の方たちが持っている、地域の情報マップのようなモノを各地域で共有できる組織ができないでしょうか。

『東海地震』に備えて自治体はかなり防災に力を入れているので情報の入手については、不安はありません。視覚障害者は音声による情報獲得が可能なのでソレさえ確保されれば大丈夫と思われる。

聴覚障害者は掲示板の読み取りが可能なのでどう迅速に簡潔な掲示が作れるかにかかるところになる。

問題は肢体障害者で自立移動が不可能な場合だ。前二者も情報を得られたから終わりではない。

そこで各項目に共通の必須改善事項として『心のバリアフリー化』を遂行しなくてはなるまい。

ノーマライゼーション社会の構築こそ問題解決への王道であると思う。

携帯メールによる情報入手の仕組みをつくってほしい。バリアのない避難所への誘導をしてほしい。(電動車いすに乗っているの)

風雨等騒音により拡声器による避難勧告があっても必ず聞こえるとは限らない、携帯メールによる情報入手の仕組みを作って欲しい。

全盲のため避難場所がどこにあるのかわからないので、ガイドをしてもらいたい。

特に情報伝達が遅れる聴覚障害者のために、無理かもしれないけどテレビ等でももう少し素早く情報を流せるシステムを開発して欲しい。

行政側がどこにどのような障害がある人が住んでいるかを事前に把握しておくべきである。日頃からの近所づきあいも大事では？

ケーブル電話、but、時すでに遅し・・・という感じでした。

情報全体が送れる。

携帯、TELであろう。

災害がおきた時にまわりの状況を確認してからどのようにしたら、みんなにどのようにして情報を伝えたらよいかを考える。災害が起きる前にいろいろ考えてもどのような状況になるかわからないので、今の時点で白紙。

よくわからない。

携帯電話

MP3にFM機能があるのでこれをつかう。

外出先で災害にあった時、どのように情報を得たらよいのか？

ケイタイにFMラジオがついている。電気がSTOPしたら、それしかない。

ラジオは聞けるが電話回線や携帯が普通の場合は、自分からの発信は無理である。

ラジオ等で知らされても自分では電源を入れることができない。

都会なんて、田舎の防災無線みたいなものがあればと願う。

特に感じない。

携帯メールで避難情報してほしいと思う。

人工呼吸器使用者には、電源を取るための自家発電機

が必要。どこにいけばあるのかりスト化しておき、必要な人に配布しておいてもらいたいと思う。

役所など障害者がどこに住んでいるか把握してほしい。家の近くに避難場所が幾つか有るけど、何処に住んでいる者がどの避難場所に行けば良いのか？そういう決まりが有るのか無いのか？それすら判らない。

自治体ごとに、もっと徹底して欲しい。

携帯メールなどで判ればそれでも良いけど、必ずしも何処でも電波が入るという訳では無いので、電波事情をもっと改善して欲しい。

主に行政が障害者と連絡が速やかに取れる、また障害者が情報をとったり、行政に連絡ができる方法を作してほしい。

自力では何もできないので人をたくさんよこしてほしい。(いろいろな人から情報を得られるよう)

例のとおり。

災害用ラジオは準備できている(各個人)。知的障害者には必ず誰かが手を引いていく人が必要。情報を適切に伝える者がそばにいればよい。

情報が入っても一人で身動きできないので、一人暮らしの人に対してのサポートを考えてほしい。

災害時の重度障害者の場合の情報ほしい。例えば、嚙下障害者の食事はどうすればいいのか？等

〔問題点〕 単身で被災地に取り残された場合、誰にも気づかれなければ、連絡のとりようがない。情報入手が不可能。

〔改善策〕 安否確認する連絡体制を確立することによって情報入手。

自由に動けることができず、介護者がそばにいない場合、自分の判断がつかない。

施設の部屋が2つに分かれており(部屋を2つ借りている)伝達に時間がかかる。

箕面駅で警報が鳴ります。

聴覚障害の場合、携帯メールでの情報確保が確実ではないかと思うられる。簡単に申請して契約できる仕組み作りを。

阪神大震災の時、何日も電話が通じなかったため、知人や友人から心配されました。複数の連絡方法を備えておくこと。町内会の人たちで情報を伝えあうようにすること。

内部障害者については、特に日常から医療電子機器を使用している人等への災害発生前からの情報提供をいかに万全にしておくかが課題。聴覚障害者については、例で示していただいたような内容のことが必要。

子どもには災害がどんな事が理解できないため、親がどうすれば安全でしっかり子ども(障害者)を守れるのか、しっかり情報を知っておかなくてはなりません。作業中はTVやラジオ等を聞かないので、情報の入手が出来るかもしれない。携帯メールやインターネット等でも入手できる仕組みを作してほしい。

特になし

広報に避難場所は載っていると思うが、手元にないのでわからない。携帯でわかればうれしい。

災害に対する認知不足からくる情報等への関心の低さ・情報や状況を理解できないがゆえに起こってしまうパ

ニック（情緒不安）。
精神障害者の場合、地域でのコミュニケーションが悪い方が多いため、日ごろから災害時の連絡体制を準備しておく必要がある。
携帯、FAXが使用可能な状況なら、その連絡網を作っておく。
集団の場所へ行きたくないと言うかも（家が良いと）一人で生活している方は、作業所や保健所等に普段からつながっているほうがよい。
そもそも情報が得られていない。
携帯は必需品だと思う。もっていない仲間が多い（中には、躁状態気味のため、とめどなくTELをかけるという理由で、もたせて貰えない事例がある）。ヘルパー等人的支援が必要。
知的障害者の人たちには絶対にヘルパー、サポーターがそばにいないとだめ。
上記にかかると考える。どんな手立てであってもお互い同士が気づいたときにどう伝達しあえるかである。当然、ハード面でのシステム化も必要。
障害特性として、認知、判断能力が低下する傾向があるため、作業通所されている方には、十分な時間をかけた情報提供が必要。しかし、あまり過度に不安を与えるとよくないケース有。また、一人暮らしの方もいるため、情報提供に限界もあるだろう。団体として取り組んでいきたい。
受けるのを待つのも聴覚に障害があったら難しいだろうし、自主的にとりに行ったとしても、その場所や広報の仕方に工夫がなければだめだから、ルビの打ったものとか、その辺からの工夫が欲しいです。
支援する人がなれていないと、コミュニケーションが難しく、情報を伝えることが困難、移動を促すことが難しい。
内容が難しく理解できないことが多い。専門用語をわかりやすく伝える体制を作してほしい。
ゆっくりと話してくれないと理解できないので他の方法があれば（拡声器以外）検討してほしい。
四六時中一緒に作業している健常者がいるので、この方々に誘導をお願いしたい。難聴者がいないので、比較的スムーズに避難できるのではと考えている。
阪神淡路大震災のとき、インスリンが手に入らなかったため、この世の最後の電話を聞きました。明日の夕方インスリンがないので死にますと電話がかかってきました。厚生省は三日待ってくれないかと言われました。患者会が和歌山港から船で30分なので和歌山から送り、命をとりとめました。国では助けてもらえませんでした。後に大阪府警から薬事法違反で逮捕するといわれました。障害者手帳ないのでこまります。
携帯メールによる情報入手。
障害により情報伝達の方法が異なる。一人の方に二重、三重の伝達がとどくように仕組みを作っていく必要がある。
プライバシーの問題もあるが、情報入手が困難な人たちの名簿の作成が必要。
障害者本人が情報を入手することが難しく、介助者が必要になってくる。また、災害状況の確認と対策を詳

しく教えてもらいたい。
準備・移動等に時間がかかるため、早めに情報を知らせてほしい。
情報についてはラジオでの情報から。避難所については以前から地区ごとに決まっていた。失語症のためきちんとした情報が伝わりにくい。避難所の掲示板もたくさん情報がありすぎて、自分に必要な情報を選択できず、不安や混乱が生じたようだ。家族が会員に要約していたが「見出し」のように整理して大きい文字でわかりやすい掲示が必要。
個人情報管理に非常に難しい時期ですが、昔から疎外され隠れるように暮らしておられる精神障害の方、特に一人暮らしの方の場合は、日ごろから地域との間に立っていただける相談員のような存在が必要。
避難所がどこなのかを知らなかった人達が多かった。ハザードマップや避難所の解説書を事前に障害者宅に配布するとともに、十分な説明が必要である。
会員の中には視力の悪い人がいますが、家族が一緒なので情報入手は問題ないと思います。
上記aと同様
避難情報の入手については、重症患者宅への方法として携帯メールでの通報の仕組みを作成してほしい。個人情報保護法の施行にともない、色々な情報提示についても制約がありますが、特に酸素療法患者に対しての避難場所を酸素供給業者に開示を願いたい、携帯用ポンベの一刻でも早い配送方法で届けられる配慮を！酸素供給業者への連絡方法を報道機関（ラジオ放送）等のできる斡旋を考慮してほしい。
役所、消防署、地元自治会、民生委員、聞こえない人に対する情報のネットワークを構築し対応してほしい。
防災センターに行って災害時の情報入手方法や行動マニュアルなどを知る。
視覚障害の方の避難所までのルートの確保。車イスの場合も道路に障害物などで通れなくなる。
聴覚障害者は、情報が入ってこないで積極的に情報を知らせる必要がある。視覚障害者は情報だけ伝えられても、初めての場所や混乱している街は動けないのでやはり助けが必要、人が必要。
特になし。
一人暮らしの障害者が孤立しないよう、各自のルートや、ここに障害者がすんでいることを他人に知ってもらいたいと思う。普段から障害者が良く使う福祉施設などを避難場所にしてほしい。（一般の方は学校などに避難するように進めている地域もあるようです）
避難情報は日中活動の場ときは指導員及び施設長の指揮で行動ができると思うが、情報を入手した段階で次の行動の判断をする材料を的確につかむことが難しいと思う。
残念ながら、スピーカーで放送されたら、聴覚障害者には避難情報が分かりにくい。直接に、担当者が聴覚障害者の家庭へ行き、例えば「危険です。今すぐ避難しましょう。案内します。」と書いたメモを見せて、誘導してあげるとよいが、それだけのことが出来る体制を地域で作れるか、課題である。自治体が、すべて

の障害者へ緊急避難を勧告するメールを、あらかじめ登録した聴覚障害者の携帯電話へ一切に連絡する方法が考えられる。現在でも聴覚障害者向けに携帯電話での110番、119番が利用できる制度が都道府県で行なわれている。これを災害時にも、避難勧告や災害情報の提供に利用できないか。

避難情報のとらえ方も問題があるが、健常の人よりも早いときに避難をすすめるなければならないのではないかと考えている。混雑のなかでの行動は無理が多いのではと考える。速めの避難をすすめる事と、できるだけ自力で行動が前提。(地元や近隣に自己アピール)

(1)障害者対応の避難所でない場合、一時的に避難所に避難しても、そこで生活はできないので、情報の入手を行い、障害者対応の避難所に移る必要があり、そのために情報の入手が必要。情報入手手段として携帯電話は欠かせない。伝言板その他の情報は、移動が困難であることから、携帯電話での情報入手が唯一の方法と考えます。

知的障害者の場合、人とのコミュニケーションが難しく、顔見知りの方でない対応が難しいと思う。今のところ、皆耳とか障害がないため、自力で助けます。

大ざっぱな情報には関心もてても、具体的に結びつかない。直接伝える人が必要。

作業所はほぼワンルームゆえ、意思の伝達はとりやすい。

携帯メールによる情報入手の仕組みを作って欲しい) 避難勧告は、障害にかかわらず情報が十分に伝わっていない場合があると聞きます。いろんな端末機器を利用できる試みをしてほしいと思います。

日頃の近所、交際が大切。先ず家族との連絡。地域の「災害避難所」設置確認(災害マニュアル) 避難所には近くの施設(介護・養護)等が適当。(一般の学校等は不適)

避難情報の伝達は必要な人に確実にとどくしくみが条件です。たとえば一人暮らし、グループホーム、バックアップ施設は当然どこに誰かを把握しているはずですが、原則情報は上から下へ細分化しながら伝わっていくのでしょうか、とりのこされがち一人暮らしなど、日常からどこに誰が何人と把握しておく部署・担当者が行政区の中にあることが必要と思います。

テレビやラジオからの情報を自力で理解するのは困難だと思われる。職員や保護者のサポートだけでは限界がある。地域の人々との関係づくりが大切だと思う。情報が伝わりにくいので、ラジオを常にそばにおくか、携帯電話を身につけておくとういと思う。

避難情報は入手できても、すぐに動く事が出来ない。

(片麻痺 男性)

視覚障害のため、掲示板、貼り紙など文字情報がわからない。スピーカーによる放送や、終始同じような情報をテープで流しておく。

本市では防災無線により避難情報が発令されるが、聴覚障害者は聴くことができません。携帯メールも有効な情報手段ではありますが、携帯電話を所持していない高齢障害者の割合が多く、完全な方法とはいえませ

ん。やはり地域でのサポート体制が必要であると考えます。

aに同じ

どこに聞けば正しい情報が得られるのか。誰でもは聞きにくいので、携帯メール毎による情報入手の仕組みがあればよいのでは。

さぬき市には有線放送があり、災害時には避難場所、状況等の連絡が随時入るようになっているが、家に一人でいた時など、どこまで放送を理解できるかという問題がある。緊急時の連絡網は作業所でも作っているが、台風の際に連絡がとれないということがあった。安否確認の方法等、決めておく必要があると考えられる。情報の内容の判断が難しい。情報が入手できる環境にあったとしても情報が理解できない。

町内会で助けてほしい。

あらゆる方法で連絡しなければならない。

阪神大震災の時は、電話も携帯もつながらない状況が続いたので、いろいろな情報を得るために避難所の掲示板を見に行ったり、近所の大きな老人ホームなどの福祉施設などに情報収集に行かなければならなかった。情報拠点が必要。

当施設の場合、日頃からの風水、火災、震災等に応じた訓練を行っていききたい。訓練を行ってパニックを生じないようにすることと思います。

車椅子に移動したり呼吸器を載せ変えたりなど、避難するまでに時間が掛かる。早目の避難勧告情報が携帯メールなどで入手できればかなり助かる。

特になし

避難所

大勢の中での避難生活は難しく、本人が精神的に安定しておれる避難所を探したい。

頸椎損傷なので、布団で寝るとき、乗り降りや床ずれになるのが心配。トイレにも時間がかかるので、プライバシーが守られる個室の洋式トイレで車イスでもいけるトイレを1ヶ所以上確保して欲しい。

避難場所を知人に頼って探した。

今回、避難所に特に問題ない上に、二日目から日中の通所施設から無料で使いやすい部屋を提供され恵まれていた。

避難所内部の様子がわからない。常時車イス使用のため、対応できる設備が必要。

避難所のバリアフリー化を進めて欲しい。

バリアフリーはもちろんです。自己導尿しないといけなくて、トイレが一人ではできないのでサポートが必要。災害時、自己導尿に必要な物が持ち出せなかった場合、すぐ入手できるような体制が必要。(薬を服用しているのでそれも含めて)

病院とかの安全対策が必要。

[課題] 障害種別によって必要とする支援が異なってくると考えられる。視覚障害、聴覚障害、四肢体幹機能障害、知的障害、自閉症、心臓疾患など避難所毎に設ける必要があると思う。

[改善策]

1. 第1次避難所は住んでいるところから近い方が良い。
2. またそこから、第2次避難所へ振り分け、安全に移動できる手段を確立する。
3. 第2時避難所とは、「医療的ケアを要する人は病院の近く」「四肢体幹機能障害のある人は介護サポーターが集まりやすいバリアフリーの場所」「自閉症の人には介護サポーターが集まりやすく、時には一人きりになれるスペースがありクールダウンも可能で、絵や写真による掲示物、案内物がある場所」「視覚障害の人には点字案内がある場所や点訳スタッフを配置できるバリアフリーの場所」「聴覚障害の人には手話通訳が配置され、言語以外のコミュニケーションが可能になるような場所」。
4. 第1次から第2次の避難場所へ誰がどのように移ったのかという状況を把握できる体制は必要。
避難所における自分のスペースの確保が困難。(場所の割り当ては基本的に早いもの勝ちだった)
トイレがしにくかった。
実際被災した家屋がどの程度の被災を受けたのかわからず避難できずにいる場合もある。避難所の運営ができる人材育成は、日本防災士機構などの団体が防災士という資格制度を元に行っているのもそういった人材を地域で育成、あるいは派遣できる体制が必要。
段差があると移動困難。
身障者用トイレが必要である。
奇声を発する、排泄(オシメが必要。障害者施設、老人施設などを避難所として希望)睡眠など時間が不規則で慣れない場所、集団での生活が困難ではないか・・・知的、情緒障害があるので、避難所などの集団生活は精神的にも難しいと思います。できれば短期入所させてくれる所を設けてほしい。
避難生活での設備が整っているか。
言語障害があり、相手にうまく意志が伝えられなくて遠慮が出てきてしんどかった。
避難生活での団体生活が心配である。特に長期化になった場合。
避難所はトイレが少ないので多くしてほしい。
プライバシーがなく、トイレがしにくい。
眠れない事が多いので集団だと眠りにくい。
避難所は避難生活が可能ないようにバリアフリーなものにして欲しい。
自己導尿をしていますので、清潔な、使いやすい、お手洗いがあのかどうか心配です。
私が居住するする地域の避難所は小学校 or 中学校になっています。最近、障害者の受け入れが進んでおり、体育館入口はスロープ化になっているが、身障トイレを設置しているところはないに等しい。私たちの場合多種の障害を併せ持っており、避難所での生活は困難なので早急に身障トイレ、ベッド等が整っている施設へ移動できるシステムが必要だと思う。
トイレのこと。プライバシーのこと。水・食料のこと。親戚、家族との連絡のこと。色々心配になることばかり。
布団、ご飯、おかず、味噌汁

視覚障害者のためのアナウンス部門を設ける。
加美北小学校。加美中学校。加美小学校。避難所の場所、行き方を説明した点字標識。
個人的に良くみつめてほしい。
避難生活で薬や医療的知識のない障害者が一緒にみんなといて、医者の人が一人でもいてくれたら心強いと思います。
避難生活が長く続く喜怒哀悲の性格が出て大変だろうと思います。
避難場所での生活中で、食事の形態によって食べれないものが出てくる可能性がある。一人である事はできないので、何か配給等でとりに行く事ができない場所がせまい。バリアフリーと違う。
高齢者を優遇するうごきはあがるが、障害者はあまりないように思うので、バリアフリー化された場所やトイレが近いところなどを利用できるように工夫する。
ハプニングを起こすと考えられる。走り回ってさけび回ることでしょう。家族が落ち着くよう、安全を譲ることに努力する。他者にあぶない思いをさせるので個室が必要になるでしょう。
避難所の狭さ。自由に行き来ができない。
障害者でも自分で判断ができない。
自分の気持ちが相手にうまく伝えることができない。
避難所での生活はできない。保護者を頼るしかない。
排便などのときに自分はトイレを使えないために、避難所では排泄をすると周囲の人に臭いがもれて迷惑がかかる。また、ベッドがないと介護するのも困難になるが、避難所にベッドがあるケースは少ない。自治体が非常時の利用のためにベッドなどを常備しておく必要がある。
水害のため車の使用が不可能となり、大変困ったので、適当な避難方法を考えてほしい。
人が多いと困る。
例のとおり。
トイレの設備をより良く改善して多く、かつ、清潔に使用できるように。
移動が自力ではできないため、トイレ介助、食事などを運んでもらえるサービスなどがあれば助かると思う。
車いすトイレの設置が絶対的必要。
何といっても最大の関心事がトイレです。仮設トイレなどは、おそらく使用できないと思います。洋式トイレであっても段差などがあれば入るのに困難だと思います。後、体育館などで毛布を引いた光景を見ると、松葉杖では歩くことはできないと思います。
また配給品を順番で待つ光景も見えますが、両手に持つなど無理だと思います。
避難所になっているところでも、階段が多く、私みたいな足の不自由な人は手すりしてほしい。または、スロープにしてほしい。
知らない人の中での生活がしにくい、また知的障害者に理解のある人が必要。場所についてはバリアフリーであること。
バリアフリー化を進めてほしい(視野が狭いため)。
地域の中で、臨機応変に柔軟に対応できる避難所指定。
デイケア施設やバリアフリーの進んだ施設、精神や知

的の方に対応できる小部屋のある施設など。民間との連携も必要。

バリアフリー化はもちろんだが、障害者の介護に慣れたボランティアを避難所に派遣できるような体制を作っておいてほしい。

トイレ、避難所内移動。

災害時はいつもの主張(施設等はだめ)ということではなく、避難所に障害者の専用ルームを作してほしいです。そして避難所のバリアフリー化は当たり前としたい。

健常者と言われる人でも大変な時に、障害をもった方にとっては、精神的、肉体的に大変だと思います。避難生活が長引くようであれば、近隣の施設への避難等スムーズに行なえるようになってほしい。

1、学校等は階段だらけで行けない 2、トイレへの移動が確保できる所なければ行けない 3、暖房がないと体中痛くなる 4、介助者も必要

避難所生活の体験はないが、お年寄りや障害者の方が、肩身の狭い思いをするだけは避けてほしい。

単独での行動はできない。

避難所の指定場所が確立していない。

避難生活中に病状が出たら、他の人が白い目で見る。

今のところ問題なし。

近くに用水路が多く、大雨の時にはあふれそうで心配です。

避難生活等の場合は、特別なことがなければ、一般人と同様に行動できると思います。

階段が多い場所の避難場所へはとうい早く行けない。

あとからあとから多くつめかけるので無理と思う。

大人数の人が集まる場所でのコミュニケーションが心配である。

特になし。

車いすトイレがない。

避難生活をするようになった場合、薬を必ず飲ませないといけないので、管理する人がほしい。

医療品や定期的に医療に関わらねばならない人は避難所での生活が困るので、最初から医者を配置するようにしてほしい。

避難所のバリアフリー化。特に洋式便所の設置をお願いしたい。

冷暖房が完備されていないと体調管理が難しい。

避難所に指定されているところがバリアフリーでない。ヘルパーがいないと生活が大変。

避難所での情報保障がないので、弁当配布などの案内も知らないことが多い。張り紙をしてもらうと助かる。(但し分かりやすい方法で)

避難所は大勢がいるので、騒がしく軽度でも難聴者はやかましさに耐えられない。

コミュニケーションが取れなくていたたまれなくなる。私のいた避難所は出入り口が2階にあり、そこにたどり着くには階段しかなかった。

体育館であったのでやたら広いが仕切りはなく、自前の段ボールで仕切りを作らざるを得なかった。

バリアフリーはもちろん必要だし、一時的に落ち着ける場所(個室のようなところ)が必要だと思う。

水源の確保

わかりません

家族と一緒にの時はいいのですが、一人だと人とのコミュニケーションができないので、サポートしてくれる人が必要と思います。

精神的に不安定になりぎみなので心のケア。

避難所の中でも、トイレなどの設備がしばしばユニバーサルになっていない。

特に小学校の体育館の設備は、災害時のことも意識した設計をするべきだと思います。

トイレなどプライベート空間の問題。

自閉症など集団で生活する事のできない子どもの障害をかかえる親をケアする方策が必要

避難所へ行っても、見た目健常者ですから、何かの活動をしないと変に思われそうですね。

人の多く集まる避難所は風邪やインフルエンザ等が流行れば、すぐに感染して心臓病にとっては命取りになります。天災によるストレス、エコノミークラス症候群や、高血圧、不整脈等、普通の人よりも多くの面で命の危険にさらされる事を覚悟しています。

避難所生活では、いろんな人が雑然と物を置いたり、寝転がったりしているので、トイレに行くのも、人に迷惑をかけて一苦労だったという話を聞いたので、できるだけ早めに福祉避難所(理解者やサポートの人がいる)に移してもらいたいです。

避難所で、視覚障害者が自力でトイレにいける環境。障碍のため暑さ寒さ(特に寒さ)に弱くそうした対策をしてほしい。

重度障害者、特に車椅子生活者は、一般の健常者と同じ避難場所では到底生活が出来ないので障害者専用の避難場所を確保して欲しい。

仮設住宅にもバリアフリー化が必要だと思う、特に障害者の場合地震や津波で現在済んでる住宅が住めなくなった場合は、仮設住宅に長期生活が続くと思われるのでその辺を考慮した仮設住宅が欲しい。

指定避難所以外でもバリアフリーができていない建物、場所があれば一般設備のところでも協力していただけるように対策してほしい。

避難所に行ったが既に一杯で入れない為、知人の家に世話になった。

夜は電動ベッドを使って寝ているので、何にもない避難所で寝ることができるのだろうか。入浴も、一人のヘルパーで出来るようにお風呂場を改造している。避難所のお風呂場は入ることが出来るのだろうか。障害者施設を利用することも可能だと思うが、施設での生活になってしまうのではないかと不安だ！自立生活をしているので、どんな場合でもいまの生活を維持したい。

トイレの設備が整っていない。(車イスでの)

バリアフリー化が重要。

肢体不自由な障害者の場合、避難所となる体育館などの床の上で眠り、身体を休めることは困難だと思う。緊急時に受け入れてくれる施設などの確保ができる体制をつくっておいて欲しい。

避難場所のバリアが多く安心できる機能がない。また、

ヘルパー・ボランティアなども被害を受けた場合には、災害弱者に対する支援体制がない。
避難所内がバリアフリー化されておらず、全員体育館のようなところで雑魚寝というような環境ではとても生活できないと思い、避難はしなかった。避難所のバリアフリー化を早急に進めてほしいことと、大勢の中で生活が困難な障害者などのために、教室などの空き部屋を利用することも必要だと思う。
車イストイレは必ず必要。
施設も避難所として指定されたが、在宅生活者が緊急避難するとき、その人も施設側も介護の仕方に不安を持って、結局施設利用をあきらめたという事例があったらしい。普段から年1、2回でも施設をショートステイとして利用しておけば、上記問題は生じなかったのではないかと思う。
ジェーン台風以後避難生活の経験が無いが、一番の困難はトイレの問題とと思っている。
出来ればポータブル・トイレを携行して避難すべきと思っている。
情報などが紙ベースで壁に張られたりしても、いつ張られたのか、また内容がわからない。
そして、支援物資の受け取る際もどこで配られているのかも知らないでいる可能性がある。
音声による情報伝達をしてほしい。
避難所に車イス用トイレやお風呂があればいい。とにかく人を集めてほしい。
排泄などの介護は、他者との同居状態では難しい。心臓や足に障害があり、車椅子での移動になるので、段差が多い所には避難出来ない。
また、在宅酸素療法をしていて何種類もの薬を服用している為、病院や在宅療法の業者との連絡が取れなくなると困る。
避難場所のバリアフリー化。特にスロープ等は入口の近くに設置して欲しい。
普段より行政に避難指定場所に対してハード面のバリアフリーを要望する。
告知の方法や配給の手段。優先室・場所を避難所運営をする際には義務付けが必要。
避難所のバリアフリー化を進めて欲しい。
避難場所のアクセシビリティが不明。事前の調査(但し普段見学できない)発生後できるだけ速やかに遠く(他府県など安全なところ)へ退避すること。近所付き合い。
処方薬の確保、体調管理に不安があります。
実際に災害に遭ったことはないのですが、避難所の場面などテレビで見ていると、学校の大講堂のような場所が多いようです。わたしの場合は、床にじかに座るとするのが困難です。椅子は場所をとるので迷惑なのかもしれませんが、椅子があればと思います。
避難所等では音声による案内が少ないようだし騒音で聞き取り難いのが実情であろう。
そこでFMミニ放送局による超ローカル放送が有効となる。避難所内の案内、救援物資の配布予告や実施状況等が確実に伝わることになる。
これは健常者も利用可能でノーマライゼーション対策

と言える。
避難所が二階で障害者トイレがなかったため避難しなかった。二階までのスロープ、トイレは必要です。ハードの改造をしてほしい。
トイレ、食事など。
床に所狭しと物がおいてある場所での移動はとっても大変、まして床の生活は困難を極める。ベッドがあればありがたい。下肢が不自由なため、水をもらいに行くのに困った。
当事務所から一番近い避難所である小学校までの道はバリア的には問題を感じないが、校内は把握していないので機会があれば見学させてもらおうと感じた。
避難所が体育館であり呼吸器を装着しているのに電源等必ず確保出来るか心配、もし確保出来たとしても避難所での生活は排泄、吸痰等により難しいと思う、プライバシーが保てるスペースが欲しい。
特になし
配給などを自分でなかなか取りに行くことができなかった。避難所にサポートできるシステムを導入するべき。
避難所のバリアフリー化。
大勢の中での避難生活は大変困ると思う、
徒歩1分の近所の小学校。
避難所での人間関係で苦労したという話をよく聞く。
日頃から助け合って生きていく関係をつくるために、小さい頃から普通の学校に受け入れてほしい。職場にも入れてほしい。近所づきあいも・・・。
私の場合は健常者のように見えるので周りから「期待」されてしまい、水汲み、食事作り、夜の会議、警備のための夜回り、荷物の運搬にとこきつかわれ(?)腰痛、ヘルペス(お風呂にも入れない状況下でしたので)風邪、不眠、精神病の症状と5重苦のなか、倒壊を免れた近くの病院で点滴を打ちながらそれでも動き回るといふ「やってはならない見本」のような障害者生活を送っておりました。あと40才を過ぎておりましたので、生活習慣病が出てしまい、特に食事が塩辛く(日持ちをさせるため?)固く、冷めたものが多く閉口しました。
介助してくれる人がいなければ生活できない。車イスクッションやマットレスは特殊なものを使っているので避難所に持っていきたい。
避難所のバリアフリー化(建物の段差、トイレなど)電動車イスの充電をどうするか?医療(薬など)
近隣に小学校がある。トイレ洗面が可能な場があるか?トランスが大変なので、簡易ベッドが欲しい。構内の移動は可能か、心配。
近くの小学校。障害者につかえる避難施設を考えておいて欲しい。
よくわからない。
避難所の建物自体のバリアフリー化を進めて欲しい。(特にトイレなど)
災害の経験がないので想像がつかない。
電動車イスの電源が心配。
市内にある親戚のところを身を寄せさせてもらっていました。不便なことも多くまた、心苦しかったです。

体育館等の避難所の完全なバリアフリー。
車イスでも使えるトイレが設置されているか。電動車
イスを充電することができるか。

避難所での情報バリアフリーに力をいれて欲しい。
人工呼吸器や吸引器などを使用する方の場合、周りに
気を使ってしまい思うようなケアができない。
近くの小学校には車イス用トイレが体育館にあるため、
そこかしら？

例と同じになるが、土地柄どうしても階段が多く移動
の時間がかかることが多い。また、あとでスロープを
つけた所は遠回りのものが多く、時間のかかる原因と
なっている。

ヘモフィリア患者の場合、四肢の関節が悪い人が多い
ので、イスがないと非常に困ります。無理をして立っ
たり座ったりすると、それが、原因で関節内や筋肉に
出血します。出血すると益々立ったり座ったりが難し
くなります。トイレも洋式でないといけません。血液
製剤（要冷蔵）が手離せませんし、出血した時、人前
で血液製剤をうつのは避けたい。まだ、必要時以外に
「私は血友病です」と堂々といえる状況にない。

言語障害者が多いので、避難所でのコミュニケーションが不安。

小学校が避難所になっているが歩いていおくには遠い
避難所のバリアフリー化。 避難所での治療食が食べ
れるか？ レスピレータ等のバッテリー確保。吸引な
どの医療ケアについて、どうすればいいのか？

1. 聞こえないことでコミュニティを形成しにくく孤立する
2. 声が大きいななど周りから疎んじられる
3. 音声による情報伝達中心になると伝わらない
常日ごろから聴覚障害者への理解促進、啓発が必要。文
字による情報伝達方法のより一層の開発。

バリアフリーでないので、逃げることをあきらめざる
を得ない。

避難所は個室ではないので、大勢の中で生活しにくい、
障害特性を持っている人の場合は、避難所での生活そ
のものが苦痛であり、困難であることが多い。

パーティー等での仕切りを利用して、プライバシー
を守る工夫が必要。

特定の食べ物しかとれない人がいる。柔軟的な対応が
望まれる。

〔問題点〕 頸椎損傷の場合、一時避難は別として、避
難所で一般の人たちと一緒に長期にわたって生活を送
ることは不可能。

〔改善策〕 医療、介護スタッフのいる避難シェルターの
ような施設や場所を確保する必要がある。

避難所は小学校などが多くバリアフリーでないため不
便。また避難先での介護者の確保が心配。言語障害な
どで、避難先でのコミュニケーションが心配。

aに同じ

障害者(知的)と家族だけの避難所が欲しいと思います
経験がなくわかりません。

避難場所のバリアフリー化ももちろんですが、VFと
なっている細い部分においては、まだまだです。ス
ロープについても、坂が急だったりする。もっと障害
者もそういった改善策、案などに立ち会うことができ

れば、そういう問題を解決できるのではないかと。
声が大きかったり、多動なことだけでなく、身内の障害
のことを隠すために避難できないということもありそ
う。できれば障害種別の避難所があると嬉しい。

あたらしい環境に慣れにくい人が多く、また、周囲のこ
ともよくわからず不安になったり、ひとりで出てしま
うと戻ってこれないことがある。
わからない。

障害者が皆と同じ環境で生活するのは難しいとわかっ
ているはずだから、専用の部屋がほしい。

私自身垂水区民で、学園都市に近いところにおいて、震
災を経験しましたが、避難生活は未経験です。した
がって、問題点がわかりませんが、飲料水、食物、防
寒用具等の十分な手当てが必要でしょうし、特に便所
の員数不足が衛生的に困るので、簡易便所設置が有事
の際、緊急課題と考えます。

日ごろから対人関係の場面で苦手なことが多いため、
交流が乏しい人が多い。避難所で近所の人と顔をあわ
せたり、共同で生活することに苦痛を感じるようです。
常備品の入手が困難になりそうで不安。

車イスだと段差があると移動困難。避難所があっても、
知的、情緒障害があり、集団生活は難しく感じ、落ち
着ける空間を作ってほしい。身障者トイレの必要性。
通院、服薬が大切であり、その意味でのライフラインの
確保、災害によって発症、再発度は高まる。

救急体制(医療)必要

各地域にある施設が拠点になれるような取り組みも必
要。自分のところの利用者だけでなく、地域の障害の
ある人たちへの意識をもち、緊急の時に、対応できる
よう、日ごろから地域コミュニティの・・・(以下FAX
きれ)

ストレスのかかる生活の中で、再び覚せい剤やシン
ナー、睡眠剤などの薬物のリラプス(再発)の可能性
が高い。また、クレイピングやフラッシュバック等の
薬物依存独特の症状が出たときに、一般の人にはその
症状についての理解がないので、イライラしたり、対
人関係でのトラブルが生じた時に、病気の症状として
適切に対応がされず、疎外されやすいのではないかの
不安がある。

移動の際の段差やトイレ等、車いすでの避難生活は困
難なことが多い。避難所やその周辺のバリアフリー化
を進めてほしい。

オストメイトに限らず、肢体障害者においてもトイレ
の問題が大きい。仮設トイレの多くは、バリアフリー
対応でないから。

段差やトイレ、また、水、食品確保が自らできなかつ
たり、聴覚、視覚障害者の場合、情報入手やコミュニケ
ーションの問題が深刻化する。

頼れる人が少ない。対人関係がそもそも苦手。

声を出したり、いらいらしてパニックになった時、皆に
迷惑がかかる。別の場所(静かな場所、個室がほしい
と思う)。自動車があれば、そこに移動したら、食事や
水等手に入りにくくなる。

昼夜逆転で夜寝ないとき、迷惑がかかる。

日本社会では、避難所は学校、公民館等、公共施設がそ

の役割を果たすことになるだろう。

バリアフリー、水、トイレ等の確保。

知的障害者の場合、独り言がおおいので、避難所の防音性高めて、障害を持つ方の家族の気疲れを軽減してほしい。

避難生活では誰でもストレスを抱えている。そんな中知的な障害をもった人たちは一見身勝手と思われる行動をとることがあるので、それによって周りから邪魔者扱いを受けたり、家族の方が肩身のせまい思いをしたりすると思う。阪神大震災のときも、体育館やグラウンドを走り回り、怒られた話も聞きました。周囲の理解を得るのは難しいので静かな離れた場所が必要です。衛生面の確保、バリアフリー化、介護体制の確保。

手すり(トイレ) 段は少なくしてほしい 自閉症の方のこだわり、発声で周囲とうまくやっていけるか気がかり。普段から交流を重ねて地域の人たちに知ってもらうことを大切にしたい。

トイレ

1、トイレの問題 2、介助者の問題 3、冷暖房の問題 4、移動の問題 これらどれひとつも欠けても1時間以上滞在できない。

自閉的傾向のある人々には、自分のペースで何事も進めていきたい人や、周囲から見ると理解しがたいこだわりや、癖をもつ人が多いので、理解がないと、他人とともに過ごす場所を共有することはしんどい。

トイレや着替えなど、特に全身に障害がある場合は問題だと思う。私は内部障害ですが、生活に不自由はないのですが、薬の副作用で抵抗力がなく、避難所での感染が心配です。重い物を運ぶためのカートなどを一時的に一つ位貸し出して欲しい!

学校が避難所となっていることが多いが、障害者用はおろか洋式トイレも設置されていない所がほとんどです。避難所指定されている限りは洋式トイレを設置していただきたいと思います。昨年中学校に避難された肢体障害者のある女性は、仕方なく和式トイレを利用し、膝と腰を痛めてしまったとのこと。

建物への出入りがまずできない。プライバシーを守れる空間がない。トイレなど設備が使えない。使えない避難所というイメージがあるので、はじめから避難所に行こうという気にはならない。

水分補給がうまくいくのか? シャワーはあるのか?

阪神で自閉症者は、結局避難所でまわりの人と同一行動ができず、親が肩身の狭い思いをし、避難所に入れなかったのです。パンひとつ貰うのにも一人で並べない人がいることを考えてほしいです。

上記と同じで自治体の取組みの中で障害者に対する対応の仕方など、しっかりしたマニュアル等作成し、非常時の対応に臨んでほしい。

どの避難所に多機能トイレがあるのか、スロープがあるのかかわからないので、避難所マップ等に記載してほしい。

避難所への居宅&ガイドヘルパー派遣(長時間欲しい) 自宅の情報が欲しい。

避難所で聞こえない人に対する手話通訳者、要約筆者を常駐させるべきと思う。

必要以上に心配したり、気になることが増えるのではないか。薬の問題、急な環境の変化があった時、顔みしりの人たちが一緒に多くいれば安心できるのでは。避難所にサポートをつけることを考えてほしい。バリアフリーは人によってかなり違うので、人的に対応することが必要。

避難場所については、事前に広報等でその場所を確認して自宅よりその道順・道路状況を調べ、災害時での違いはあるのは、当然ですがその対応ができる準備も考えておくべきだと思います。

災害時における情報のN T T伝言ダイヤルサービスの具体的利用の考察も必要と思います。

当会の病気は薬が大変大事(ステロイドなど)で、薬が必ず服用できる水の確保など。当会以外でも同様なこと必要とされる方もいるのでは。

普段より避難所になっている所に水の備蓄をしっかりとできるような体制をとっておく。

避難所のほとんどが学校で、障害者用のトイレがなかった。また床上の生活を強いられるため、起居動作が不自由な方は避難所を利用しなかった。

知的障害者、自閉症児、医療措置の必要とする人たちの身体的、情緒的安心・安全の避難所・避難室が必要ではないでしょうか。

病人、要介護者、認知症の人も同様ではないでしょうか。

避難場所に指定されている施設(学校等)はバリアフリーであり、車イスなどでも利用しやすいトイレを常設してほしい。二分脊椎症児・者は、ほとんど(85%ほど)が自己導尿をしています。よって薬や医療面の充実、衛生面の確保にも力を注いでいただきたい。

想定された避難所は近くの体育館で日頃の地域住民とのつながりがどのようにできているかということがその後の避難生活に影響してくると思う。もちろんバリアフリー化は大事で大勢の人たちとの同じ空間での生活にトイレの問題等心配なことが多々あります。

通常の生活よりも介助の量が増えると予想されるので、介助者の確保が不可欠。

災害時は誰でも同じ境遇であることから、不平等感を与えたり、感じさせてはならないと思うのが前提である。避難所といえる所は公共性を求められるのだから、避難所でプライバシーを最低限得られる場所の確保、用意、準備が必要。

(1) 避難所に入るには、まずスロープが必要です。(2) 車イス用トイレがないと避難所での生活は送れません。(3) 避難所には尿器・紙おむつ・褥瘡予防マット・車イス用パッド・消毒液・カテーテル・簡易ベッド等の備えがないと生活は送れません。(4) ボランティアさんの手助けがないと避難生活は送れません。(5) 気配りをしていただき、障害者にも、食料・水等の配布が健常者と同じように配布していただきたい。

医療の提供(輸液、静脈リウウの手当て、インターフェロン治療等)

トイレが一番問題。障害者用トイレがほしい。確保できなくてもトイレや着替えができる、広めの空間が欲しい。まじきりが必要。

避難所は床がかたいので、体に負担がかかる。体位変換が簡単にできないので、マットまたは空気マットが必要。床ずれにもなるので。

バリアフリーも必要だが、それ以上に障害のある人が孤立しないように、例えば段差のある所では救助の手が自然とでてくるような配慮がほしい。

一部の人は、人が多く集まる所を苦手とする人もいるので、そのことで具合が悪くなる人もいるので、配慮が必要とされる。服薬が必須なので、長期・緊急避難となると、薬がなくなる事も考えられる。

避難場所では、聴覚障害者への情報提供に工夫が必要である。例えば、

災害対策非常機器として、「アイ・ドラゴン」を避難所に設置する。

字幕付放送のできる大型テレビを設置する。

地域の被災状況、飲料水・食事の配給予定、安否確認等、避難所に必要な情報を掲示する体制を検討する。

避難所に避難してきた聴覚障害者を把握し、手話通訳派遣等、必要なサポート体制を自治体ごとに検討する。

視覚障害者は避難所のトイレや洗面所などの配置を覚えるまで、手引きの方が必要である。身体障害者の場合、特にプライベートな配慮が必要などきの空間の確保、またヘルパーの確保。

団体生活が苦手な方もおり、パニックになった時などの対応が重要だと思われる。相談にのったり、状況に応じた対応のできる職員の配置、また緊急時のマニュアル作りも課題であると考えられる。

指定された避難場所のバリアフリーチェックを、平時に行っておくのもいいかもしれませんが。避難場所にどこが指定されているかも知らないことが多いと思います。

病気とわかった時に差別されるのではないかと不安。周りの人が騒がしい中で、耐えられるか不安。自分のペースで生活できなくなるのではないかと不安。主張するのが苦手なので、不利益を受けるのではないかと不安。仲間どうし近くに居られるようにしてほしい。プライバシーが守れるようにしてほしい。

旧小学校の校舎を利用しているため、多くの種々の人々の避難所となる可能性がある。

精神的にショックからくる極度の緊張、不安、動揺による奇声（他の人の迷惑）。

一般の集団（避難所）のトイレ使用できず。

自家用車などの避難生活をしたが、情報も救援物資、食料入手困難。

集団生活がにがてな人の、安心できる、大集団から区別された空間を正規の避難所に一ヶ所以上つくってほしい。それは自閉症の人などのためだけでなく、どの人にとっても必要です。

環境の変化を受け入れることが難しく、窮屈な避難生活のストレスに耐えられるか不安である。

自閉症の障害がある子たちは、パニック状態になるので、落ち着いて避難所生活ができるようなスペースが必要だと思います。

身体に障害のある人たちは、使いにくいのでバリアフ

リー化が必要だと思います。

なんとか、時間はかかってもいける。一番の問題はトイレだった。

震災時は施設にいたため、特に困った事は無かった。トイレの問題や寝るときの問題、その他いろいろな問題があると思います。特にトイレの問題が一番だと思います。

トイレや居場所などの移動の問題。救援物資や安否情報確認の張り紙等。文字情報の問題。盲導犬関連。糖尿病、人工透析など、視覚障害と切り離せない関係の問題。

視覚障害者専用の避難所が必要であり、サポートする人たちもある程度介助の技術が必要である。生活施設の盲老人ホームや盲学校の寮など、視覚障害関連施設を二次的避難場所として結びつける地域のネットワークづくりが必要である。

避難所はトイレが少ないと思いますので、念のため多い方がよいと思います。

定期的な通院、服薬が必要。交通手段がなくなった時、徒歩で行ける範囲に薬が入手できることが重要。そのため、ネットワーク作りの整備をしておく。

障害者だと目で確認できればよいが一見普通の人に見えてしまう場合、他人の協力を得られないのが困る。バリアフリーはもちろん、体温調節の難しい方などもおられるのでそれなりの環境が必要となります。

やはり足の不自由の人たちには足に負担がかかるような場所は困る。トイレも洋式が必要は人が多い。

普段、生活している場所やいつも使っているものが手元にないと落ち着かない場合や、大勢の騒がしさの中しているとパニックになってしまう場合、避難生活は難しいと思う。

段差が大きいし、心臓病はパニックで発作が起こりやすい。空気のよどみが呼吸を妨げる、換気には十二分に気を遣っていないなければならない。ただ、学校だからという理由で避難場所に指定しても、肝心の時に行けない場所では何の役にも立たない。

私たちが直面した問題も、例に示されている通り。避難所は全く使えなかった。無事だったメンバーの自宅や友人宅に居候という形で急場をしのいだが、仮設住宅に入ってから介護者の確保が課題だった。

呼吸器使用者には、何と言っても電気が欠かせない。大規模停電などでも電源の確保ができるのか事前に確認しておく必要がある。

人工呼吸器使用者の医療品などの物品は、一般には入手できない物も多いため医療機関等との密な連絡が必要。

実体験を伴わないため(有経験者なし)認識、理解が難しい。情報入手とも共通するが体験者の声を聞くことが必要。

家族が一緒であったため、それなりにすごすことができてたようだ。

作業所から避難場所に行きますのに車イスでは段差があり少し斜めで、車イスでは困難はとこがあります。例にありますようなバリアフリー化はぜひに即実施してほしい。

大勢の中で生活をする、ストレスがたまり症状がでる(幻聴など)と思われる。またパニックになる可能性もあると思われる。食後の服薬が正しくできるように水の確保など必要。

仮設住宅

体温調節ができない障害などで、ぜい沢ではなくエアコンは不可欠。

仮設住宅の入居、経験はありません。

長期になると仮設住宅では無理。福祉施設の避難所がほしい。

風呂やトイレの水もれに気をつけよう。

いつまでもおけるアパートや住宅にしてほしい。

[改善策]

避難場所の近隣でデイサービス、銭湯、ホテル、旅館など緊急時に利用できる場所を確保しておくことが必要。バリアフリーの建物がよい。

歩行には障害はないと思います。

通うコースが異なることで、迷いや不安は大きいと考えられる。常に付き添いがあることが望ましい。

車イスの方や目の悪い方にもつかいやすい住宅も用意できるようにしてほしい。

お風呂が狭い。バリアフリーにできてない。

段差と部屋が狭いと動きが取れないので、一部屋でもいいので部屋が広い方がいい。

あったらいい。

仮設住宅で障害者の方がみんなと一緒に暮らしていけるのか心配です。

車イスで出入りがスムーズにできるようにスロープが必要。中も段差がないように。

キャンピングカーのような移動可能なもの。

障害者の方でも利用しやすいバリアフリーテントを準備しておくとうまい。

もしあれば仮設住宅があれば入れてほしい。

すべての面に置いて不自由な避難生活だと思いましたが、食料だけは十分に配って欲しいと思います。被災地に向けての輸送はすぐには困難なので、避難所になる学校や公共施設にはふだんから食糧の備蓄が必要だと思います。

現状の仮設住宅の規格では、車椅子使用者が利用することが困難。仮設住宅というより、公共施設、ホテル、病院など災害時の受け入れ体制づくりが必要だと思う。重度障害者の所在を把握しておいていただきたい。それによって必要な情報及び支援が必要とする人に届くように。

トイレ、風呂の手すり、床の素材(滑りやすいものは×)

仮設住宅そのものには視覚障害でも理解しやすい構造であることや、その仮設住宅からの移動の場合にわかりやすい配置で設置することで自立した生活が送りやすくなる。たとえば仮設地域とともに被災者専用の仮設スーパーなど。

耳の聞こえない人の場合はお知らせランプをとかを特別につけるとか手話通訳者とおり合わせに配達すべき

と思う。遠い親戚より近い他人というように隣近所の人に協力していただくように心がけるべきです。

仮設住宅にも障害者対応のバリアフリー住宅を考案して欲しい。

仮設住宅には入ったことはありませんが、現在すんでいるマンションが仮の住まいです。家賃が今までの6倍なので苦しい状況です。

避難所と同様の心配、要望+食事作りが可能か?(台所)+在宅医療面でのサポートが欲しい。

災害の経験がないので想像がつかない。

とくに感じない。

住み慣れた部屋とはちがうので、精神状態がどうなるかわかるませんが、慣れれば大丈夫と思う。慣れる迄のケアをしてほしい。

バリアフリーの住宅にしたら、どんな障害を持った人でも生活しやすいと思う。

プライバシーが保たれないので仕切りを作ってほしい。困ったとき駆け込めるところを作ってほしい。

お風呂やトイレなどの手すりがなければ利用できないので、個人個人にあわせ手すりなどをつけてほしい。

うちの子供は別に問題はないと思います。

仮設住宅については、私の場合は身体の都合上、西洋式トイレにしてほしい。であれば全員できる。

長期的な仮設住宅になると、今度は風呂が一番気がかりです。よくみる背の高いユニットバスなどは使えないと思います。シャワーも高い位置にあると使用困難です。

また入口などの段差も気になります。

風呂、トイレを大きくしてほしい。

段差があると移動ができない。体温調節ができない人だと冷暖房のない部屋での生活は無理。

仮設住宅では対応できない。

車イスなどを利用するのが難しいのではないかな。

やはり風呂の狭さや、段差が問題になる。

車イスを利用した人が使いやすい規格の仮設住宅を建設してほしい。

仮設住宅については不安なので意見は申し上げられません。

バリアフリーの仮設住宅。

良くわかりません。

今はまだ歩けるので仮設住宅で生活はできると思いますが、障害者用に仮設住宅を建設してほしい。

ぜんそくをもっていて、夜せきがでると周りに迷惑になると思い、みんなが寝静まるまで外にいた。

仮設住宅の場合は、障害者同志がグループ同士でホーム的な利用があればよい。

仮設住宅は部屋が狭くもう少し広くしてほしい。

障害があることでパニックをおこしやすい。

車イスに対応した設備にしてほしい。

トイレ。風呂。

仮設住宅にユニバーサルデザインを取り入れる

常に介助者がいるのでお風呂はそれなりの広さがほしい。

精神的なストレス。

温泉旅館等に泊まれる。避難所や災害を一時忘れられ

る環境、リフレッシュできる環境。(無理ありますが・・・)

自営で治療院などをやっていた人は、仮設住宅では営業もできず、収入の糧もなくなったという話を聞いたことがあります。

バリアフリーの仮設住宅にして欲しい。

ユニバーサルデザインの仮設住宅の建設を望みます。車イスを利用しているので、段差がなく、広いトイレと風呂にして欲しい。

視覚障害者にとっては仮設住宅そのものは問題にはならない、有れば充分であろう。

課題は交通アクセスと接続道路、少なくとも有効なランドマークの設置が必要。

車椅子の人が使用しやすい仮設住宅の確保。

経験がないので何とも言えないがTV等で見る仮設住宅ではバリアフリーになっておらず利用が困難と思われる。車椅子を利用し移動入浴を利用出来る余裕のある住宅が必要。

慣れない住まいのため部屋の内部構造がわからず迷うことになりそう。

人に内部の説明やその仮設住宅がどこにあるのか案内をしてほしい。

実際に仮設住宅を見たことがないのでなとも言えませんが...。一番心配なのはトイレです。洋式トイレでなければ利用できないので。

仮設のバリアフリー

冷暖房の確保。速やかなインターネット環境の立ち上げ。情報の周知、案内。床の強度、特に電動車いす対応。

仮設住宅にもバリアフリー化が必要だと思う、特に障害者の場合、地震や津波で現在住んでる住宅が住めなくなった場合は、仮設住宅にて長期生活が続くと思われそうですのでその辺を考慮した仮設住宅が欲しい。

仮設住宅自体見た事がないのでわからないが、よく風呂やトイレが狭いこと、出入口に段差がある仮設住宅の映像を見ると少し不安に思う。

障害者や高齢者など誰もが利用できるユニバーサルデザインの仮設住宅を建設してもらえよう働きかける。

音！これに尽きます。私の場合、過敏なので大変な思いをしました。それとポートアイランドに住んでいたのですが、水上(すいじょう)署というケーサツが、仮設民が1万人も増えたため、対応できなくなって難事が起きて来てくれないということがありました。

もっと広い間取りで、バリアフリーの仮設住宅であればよいと思う。

車イス対応の仮設住宅。

トイレ・風呂のバリアフリー化。

今後は仮設住宅の車椅子・障害者対応住宅の割合を高めて行く。

建材の種類によって、ぜんそく発作など体調を崩さないか不安です。(仮設住宅体験がないのであくまでも想像です)

段差が多かったり、お風呂やトイレが狭いと圧迫感があって、精神的に苦痛に感じる。

車椅子でも利用できる住宅にして欲しい。

入り口の段差が高すぎる 仮設住宅もバリアフリーにするべき。

例のとおり プラス交通アクセスも。

バリアフリーの仮設住宅を建設して欲しい。

寝る時、ベットの設備が整っていない。

車イス住宅の仮設住宅があったらいい。(バリアフリー) トイレやお風呂場が遠い避難所よりは、仮設住宅の方が暮らしやすいと思います。

仮設住宅の何戸かはバリアフリーの設計になっているものにして欲しい。

対象外=今回の地震による当施設にける被害は軽減で、18時地震発生後翌朝4時半まで停電になった程度。

車イスでも生活できる住宅が用意されるかどうか。優先的に入居できるかどうか？

室内は杖で歩けるので、何とかかなと思うが、通常生活より介助は必要だと思う。自分用になっていないから...

介助の問題やバリアフリーを考えると福祉利用の目的の仮設住宅が必要である。現住所に近いところを望みたい。

上記と同じで、大き目の仮設として障害者専用という仮設は絶対に必要です。

風呂やトイレをバリアフリーにしてもらう必要があるが、キッチンも車イス等で座って行動ができる仮設住宅を作ってほしい。

バリアフリー住宅。

仮設住宅の中は見ることがないので良くわかりません。仮設トイレも仮設住宅も健常者に合わせるのではなく、最初から障害者でも使えるような規格にしてほしいと思う。

仮設住宅はバリアフリーではないことから、その不便さを補う人的支援体制が考えられていない。

現在の仮設住宅は水洗トイレも風呂も有り、大変よく出来ている。同じレベルのものが建てられるなら、手摺やスロープが加えられたら何とかしのげるのではと思っています。

玄関にスロープがないために入ることができずに困った。障害者用仮設住宅をもっと多く作るべきだ。

抽選で市営住宅に当たったが階段も有り車椅子では風呂、トイレも入れないので連絡をしたが聞き入れて貰えず、仕方なくスロープとトイレを購入した。

せめて私1人でも車椅子の仮設に入れてほしかった。

身体障害者の利用しやすい仮設住宅を求める。

バリアフリー住宅にしてほしい。

〔問題点〕ほとんどの頸椎損傷者は仮設住宅で生活することが不可能と思える。

〔改善策〕長期療養施設等に一時収容するか、介護スタッフの揃った支援体制を確立することが必要。

近所の人たちの障害者に対する理解がないと、嫌がらせやトラブルの原因となる。

自分の出す声、他の人の出す声、また、周囲の声、雰囲気になれず、不安になり、パニックを起こすことがある。また、そのような状況では食事、排泄できず風呂に入れないことがある。

ユニットバスの使い方がわからない等、生活設備をわ

かりやすく作ってほしい。
女性ばかりの作業所のため、プライバシーに配慮できるトイレ、風呂が必要。
狭い空間で共同ですぐすときに、息苦しくなったり、不安が増大して、精神状態が悪化にすることにつながりやすい。この病には特に睡眠確保が不可欠なため、仮設住宅での暮らしは、非常に困難を極めると思う。
居住地の近くに、小規模で、人のつながりを大切に作ること。
孤独死の不安がある。医療機関や保健所と連絡がとれるようにしてほしい。
障害者用の仮設住宅も必要。
家が壊れた場合、どうしても仮設住宅にお世話になることでしょうが、自分の家と違うので外へ出たがって、窓やドアから外へ出る事と思います。外へ出たら、もうどこへ行くかわからないので、その事がとても心配です。
記載例の通り。幾つかの仮設住宅内に風呂やトイレを車イスの人が使える(ユニット)方式の仮設住宅が欲しい。
知的障害にとって、いつもの場所、慣れている風景が一番落ち着く。そのため環境の変化に戸惑い、不眠等ストレスが一番気になる。改善策等は難しいかもしれないが、自宅等の復旧のスピードアップかもしれない。
仮設住宅の設備が十分なのだろうか。行政単位で阪神大震災規模の避難者用の仮設住宅を用意しておくことは無理だろうし、地方単位(東北、北海道、関東、北陸など)で、必要数を確保し、いざという時、すぐ活用できる体制はつくれないだろうか。
例ももちろんですが、室内の快適な温度設定と隣との音響の区画を十分に考慮すべき。そして、高齢者が一人で生活する場合には緊急ブザーの設置が必要。
自閉的傾向のある人たちには、自分のペースで何事も進めていきたい人や、周囲から見ると理解しがたいこだわりや、癖をもつ人が多いので、理解がないと、他人とともに過ごす場所を共有することはしんどい。
風呂、トイレ、玄関、バリアフリー心配。
わかりません。
寒さ、防音。
バリアフリーの仮設住宅の希望と、できるだけバス停や、交通アクセスが便利な位置。情報も届きにくいので住宅群の中央に位置するように配慮してほしい。
障害が重すぎて仮設住宅は生活できないので、住まいが見つかるまで重身の施設に入所できないか。
車いす利用者、障害者に配慮する仮設住宅があればよい。
慣れない所での生活になじめない。
トイレがたくさんあってほしい(薬と便秘用の薬併用飲んでいる方もおり、おなか痛い時大変です)
仮設住宅の家だと隣、近所の声が気になり、しんどくなる。
車いすでも支障なく生活できるよう、玄関、廊下、風呂、トイレ等にゆとりがほしい。
車いす利用者に対しての広さを考えてほしいし、できれば障害者用住宅も検討してほしい(段差の問題もあ

るので)。
仮設でのバリアフリー化を。車イスでの利用ができるように。
北区の仮設住宅では、特に公共交通の利便性が問題としてあった。プライバシーの守れる仮設住宅、またトイレや風呂などの住環境のバリアフリー化は障害の有無に関係なく必要。
一般的に考えられる対策は必要だが、何よりも話を聞いてもらえるカウンセラーや相談員が必要。
聴覚障害者は声も大きく、テレビのボリュームも大きくするなど、近隣に音迷惑をかけがち。防音対策を住宅に。
ストレッチャーでも利用できるような規格の仮設住宅を考えて欲しい。
仮設住宅に移ったことにより通院など不便が出ると思うので、そのあたりのサポートが必要では。通院するためのサービスをつくる。
個々の家庭が自立していく上でも、使いやすい規格の仮設住宅建設が重要。
体温調整がとりにくい。例に同じ考え。
仮設住宅においては特に隣接する人たちとの間で理解ある生活ができるか?まず人間関係(ソフトの面)で、そしてハード面での設備が心配になってくる。
仮設住宅を見たり、利用したりするものが少ないので、意見がまとまりにくいのですが、風呂・トイレ・廊下・段差など車イスのものが使いやすい=誰もが使いやすい仮設住宅であってほしいです。
交通アクセスの便利な場所に建設してほしい。
聴覚障害者は外見ではわかりにくいので、近所隣りの人たちに聞こえないことを本人が言って孤立しないようにすべきと思う。
聴覚障害者の場合、仮設住宅への入居受付に関する情報保障が最優先課題です。
入居申込手続きから、手話通訳等のサポート体制が必要である。
バリアフリーの問題に加え、手すりをつけにくい構造になっているため、その方にあわせた援助がしにくい。
玄関のひさし、スロープを後からつけてもらった。風呂は使えない人が何人かいて、2年間銭湯に通った。障害者が優先入居させてもらったのは有り難いことだったが、最後に建てられたケア付き仮設が最初に建てたら、随分助かった人も多いのじゃないか。高齢者も障害者も、まずヘルパー付きの仮設住宅に入居し安心を確保してから、体制が整ってから、一般仮設に移れるとか、選べるといいと思う。
心臓障害は暑くても寒くても呼吸ができなくなる。換気に注意してほしい。風呂は車椅子用に設計してほしい。トイレは洋式が望ましい。
車椅子で入ることは難しいと思います。期限が決まっているからその間に家を見つけることが大変だと思います。
総ての仮設住宅の規格を風呂やトイレの広さ、バリアフリー仕様に重点をおくものになればいいと思います。高齢化社会を迎えて、仮設を利用する人でバリアフリー仕様が必要な人はますます多くなると考えられま

す。独居の人の場合、人とのつながりが希薄になりやすい。巡回型のボランティアや緊急通報などを極め細やかなものにしてほしい。もといたコミュニティ - に戻せればそれが一番なのだが...集落単位の移住が必要かとも思う。

その場の生活全般を本人に代わってあるいはアドバイスをして組み立てる必要がある。自己主張できない人に“できますか”と尋ねていくことが重要。

その人に合わせた住宅が望ましいと思います。(難しいとおもいますが、種別に沿う等)

車イスでも利用できる仮設トイレがほしい。

例で示している内容のとおりであるが、特に内部障害者についても、個々の障害の特性に応じた仮設住宅設計が必要。聴覚障害者については、特に地震災害の場合は、大きな余震が何ヶ月にもわたって続くことがあり、避難を呼びかける際、どうやって避難指示(勧告)を伝えるかが課題。非常時点灯ランプ等の常設が求められる。

仮設住宅に入った薬物依存者が薬物を使う可能性は極めて高い。医療・DARCのようなリハビリテーションセンター・セルフヘルプグループなどの連携をしてサポートをするのが大切。

睡眠が十分に取れない、不安と他人の存在。わかってくれる人がいるのか? ケースワーカーが配置できるのか? 郵便物は受け取れるのか?

同じように移動手段かと思えます。

外から入るまでの段差、トイレ、風呂、段差の問題でしょうね。

となり近所との騒音でストレスがたまるなど。通院病院への交通の便の良し悪し。

一般向けの仮設住宅だけではなく身障者用の仮設住宅の必要性。車イスを使用している方にとって、利用しやすい環境、設備を作ってほしい。

急に周りの状況が変わるとということが非常に苦手な方が多い。長時間にわたるとストレスにもなると考えられ、対応する職員の配置が課題であると思われる。目の悪い人、足の不自由な人が使いやすい作りが望まれる。

バリアフリー、車イス使用の方でも使える規格。温度調整。

(1) 仮設住宅にスロープが必要です。(2) 仮設住宅に車イス用トイレが必要です。(3) 仮設住宅に車イス障害者が入れのお風呂が必要です。(4) 仮設住宅内は段差がないことが必要です。

慣れない場所に適応することが難しい性格の場合、慣れるまでの期間不安定になりやすくなる。

車イスを使用している身体障害者はトイレのスペース、台所の高さも考えた使いやすい仮設住宅が必要だとも思います。

仮設住宅については、呼吸機能障害疾患者に対する感染症対策にでき得る限りの配慮をしてほしい。

住居スペースが狭いため、盲導犬との生活が困難。障害者サイドの意見を取り入れた上で障害者向けの仮設住宅を建設する。

周囲の道が変わり外出できなくなる。歩行訓練士を常

時から十分に確保しておき、派遣する対策をとってほしい。

例の通り。個室など落ち着ける空間が確保できるような工夫がほしい。

周りの人たちと、病院となじめるか。顔見知りの者また普段からつきあいのある者が近くにいればよいのでは。サポートしてくれる人の関わりがあればよいのでは。仮設では、奇声や激しい動きの物音が近所に響き、親は神経をすり減らすようです。できましたら、知的が3軒くらい続く住宅があればと思う。

今の仮設住宅がどんなか知りませんが、車イスのためのトイレや風呂は必要だと思います。今ないのなら早急にするべきだと思います。

風呂も必要ですが、障害のある人には支援者から個別の支援・介助の可能なシャワー室も必要と考えます。トイレも同様。

車イスで動くには狭い。ベットはお風呂の補助具など、普段家で使っているものがないことで、普通は一人で風呂に入れる人でも介助者が必要になったり、一人の介助者で大丈夫な人が二人の介助が必要になったりする。

視覚障害者は環境が変わるので動けなくなる。買い物などに助けが必要。

聴覚・精神・知的障害の人は孤立しがち。情報をきちんと伝えたりコミュニケーションが必要。

車イスを利用している人はいないがトイレは洋式、風呂もあまり出入に段差があるのは困る。

復興過程

通院に電車をつかうので早い復興がのぞましい。

現在の生活は親子二人なので、障害のある子に手がかり何もできないと思うので、状況に応じて支援してもらえよう体制を取ってほしい。

工事中の道路を移動する時、車イスを使用しているので道幅が狭いと危険。

臨時にヘルパーを利用できる体制がほしい。

車での移動が多かったが、道路工事のため遠回りすることが多くあった。

道路が悪く、車や車イスでの移動が困難。

工事地域の歩道の確保。生活支援の時間の増量。

施設の協力、親戚、知り合いの応援で非常に大助かり。本当に恵まれていた。特に問題なし。

家の復旧のために、障害者たちがどこかへ集まり、取りくみをしてほしい。日中、家族の近くに居るとどちらともストレスが溜まります。

例のごとく、状況の変化は視覚障害にとって致命的であり、その説明など介助ができる人材がほしい。

作業所の閉鎖などで行き場がない。

移動のコースが異なることは、大きな問題をかかえてしまう。付き添いが必要。

一応人並みの暮らしは取り戻しましたが、一日も早く家賃の安い安住の地を見つけたいです。

道路がきれいに舗装されないので、行動が困難である

障害者にとって、一日も早い復興が、病気の苦しさや避難場所の生活の疲れから解放されると思います。路面が悪くなると車椅子での移動が困難になる。障害当事者が主催する。復興プランを決める委員会組織を作っておいて、そのプランに沿って復興させる。障害者の希望を聞くための意見書箱。率先し建設できるようにしてほしい。たぶん色々な規制や法律が邪魔しているように思います。工事の現場には仮歩道やガードマンなど設置していただいて、安全に通行ができるようにしていただきたい。アマチュア無線のネットワークを構築して情報の伝達を行いたい。日常生活のためのガイドヘルパーの派遣。工事中は外に出ないため、特に問題はない。色々手続き等で聞こえないので不自由するので、手話、要約筆記を配慮してほしい。ゆめ風基金様より義援金をいただきクロスのひび割れなどの修理費にあてました。私たち電動車イス利用者や人工呼吸器利用者には、ライフラインとして「水」のほかに「電気」も不可欠なものなのです。ですから、そのような障害者のいる避難場所には、最低でも小型の発電機を1台用意してほしい。地域の助けが必要。ハード面だけではなく、ソフト面も大事。復興作業中は道路などに機材等が置かれていると思われるので、車いすが通れる道を確保してほしい。被災したとき、道路が大渋滞して通行に難儀した。生活に必要な電気、ガス、水道を一日も早く復旧してほしい。車での移送も必要。臨時ヘルパーを利用できる体制がほしい。一時、生活保護を打ち切るとかいった行政があったが、受けている制度は手続きをしない限り、打ち切りにならないようにしてほしい。電動車いすで移動できるようになるまでの、買い物などの時のガイドヘルパーの利用ができるといい。現在マンションで仮住まいをしているが、公営の住宅を配慮してほしい。環境適応に少々時間がかかる。工事をしてきれいな道になるのはありがたいこと。その間足の不自由な人は通るたびに困難。復旧工事で道の状況が把握できず、けがをする危険がある。普段改造自動車を運転して行動しているので、それが使えない状況だと相当苦しいものになります。またどうしてもみんなが困っているのだから障害者もがまんしてくれみたいな雰囲気になると思いますが、障害者の場合、単にがまんすればすむという話ではなく、致命的な場合もあると思います。普段の生活こそが障害者の最低生きていく条件ですので、復興過程では相当厳しいものになると思います。様々な障害者の委員会を設置して、復興計画に参加すべき。ヘルパー、短期入所の支援がすぐ利用できるようにし

てほしい。外出の時、足元が悪いと出られない。代わりに用事をしてくれる人を。復旧などの時に車イスでは移動ができなくなるかと思っています。空からの復旧体制が欲しい。長期化することへのストレス増。ハード面のしんどさは、ソフト面、人の力で解決できることもある。行政の被災状況も大きい場合、要求しても即対応できないことも多い。ボランティアや民間の力をうまく生かすことができるようなコーディネートのできるネットワークがあればよい。薬を飲んでいるので、水の確保、一般の人以上に必要かと思っています。復旧工事における通路の確保。仮設住宅に入居手続き、家の修理等で業者との交渉事にコミュニケーションが取れず、不自由する。サポート体制を整えてほしい。ただですらバリアフリーではないから移動が困難になる。道路状況がかわり、非舗装道路が多くなるので移動しにくい。障害者は平時でも苦勞をするものです。ましてや異常事態では、その時はよき相談相手になっていただきたいものです。次々と新しい道で目標物がなくなっているので道に迷う危険性がある。ヘルパーが利用できる体制があれば、私たち障害者の手足になって動いてもらえると思います。これは障害の有無に関係なく、みんな大変なのでしょうが、もし工事のために迂回する必要がある時、その迂回路がすごく長かったり(つまり、遠回りすぎる)すると、長距離を歩くことにとっても苦勞を使うので大変だろうなと想像します。復興過程において障害者のことも考えてほしい。復興が長引くほど、障害がない人でも身体の健康管理をすることは難しい。障害がある人にとってはより大変になると思うので、いざという時に病院などが受け入れてくれるように対策をとっておいて欲しい。実際に仮設住宅を見たことがないのでなんとも言えませんが…。一番心配なのはトイレです。洋式トイレでなければ利用できないので。介護体制について、他府県からの支援があればと願う住環境の確保が一番の課題と思うが、一時的な問題ではない為、簡単には思いつかない。工事中も歩きやすい歩道にしてほしい。例にあるような、視覚障害者にとって移動しにくいような状態もあるでしょうし、開業者の仕事復帰というのも、サポートが必要な気がします。やはり、薬が心配です、現在自宅の埼玉から東京の病院に通院して薬を処方してもらっています。みんなが災害に遭った場合高度な医療の乏しい埼玉で同じ薬が医師の手により処方できるとは考えにくいです。逆に東京が被災した場合の方が非常に困る患者が多く出ると想像します。

阪神大震災の際、東京の病院でも薬が品薄になり、医師が慣れている数種類の風邪薬が品切れになり、とてもその影響が怖いと感じました。

避難所での生活になると、障害ゆえにもっと介助が必要になってくる。どんなときでも、必要なだけのヘルパーを申請できるようにしておいてほしい。

全壊の家を補強・修理をするにも障害者にはなかなか融資が受けられなかった。

国、県、市での融資の枠があれば。

災害の状況にもよるが、被害が甚大な場合はこの地域での生活は難しいと思う。他の地域に(他市町村)移った場合でも今までの支援体制を維持出来る体制を欲しい。

薬の確保・服用してる薬品名を覚えておく。支援物資の確保・支援物資を届けてくれるようなシステムを作る。

復興するのに長期間にわたった場合、眼薬などが切れたりすることが不安。

病院へも自分で行けないので困る。

視覚障害者同様、車椅子利用者にとっても移動が困難 下肢障害者にとっても非常に歩きづらい

障害者住居周辺のアクセス復帰の優先、バリアフリー化、防災倉庫等での医療的自己管理のための医用品の保管。

道がふさがれていて車イスが通れない。

自身の家が全壊なのか半壊なのか、その判断が視覚障害者にとっては難しく、その理由の説明が必要。また判断が出たとしても、現状何とか生活できてしまっている場合、余震等による避難遅れなどが考えられる。

障害者団体の普段から事務局レベルの横のつながりを強くして意見集約をしておく。

復興が長期化すると、健常者でも精神的にしんどくなるので、心のケアをしてくれるプロの方を派遣して欲しい。

車イスなのでボコボコの道は歩きにくい。きれいな道があれば教えてほしい。

まさしく例示されたこと、そして交通アクセス。ここでもFMミニ放送局が有効となる。

道路等の工事現場に誘導を兼ねるガードマンの配置を義務づければ個々のヘルパー同伴は無くてもよいのでは・・・。

小さな政府と言え、最近のアメリカのハリケーン「カトリーナ」に象徴されているし、新潟の地震・台風災害時に国からの補助金を含めた緊急災害時の予算措置が遅れることなど、国の災害時の責任と義務が希薄になることは、大いに不安だ。

車イスで移動が大変だった(段差やでこぼこで)。エレベーターやバリアフリーの建物が多くなった。道路の段差が少なくなった。

復興住宅に老人や障害者を小さな地域に集められていく。1つの地域に集めるのではなく、希望する地域に入れるように計らうべきである。

大型幹線道路などは比較的早く復旧するが、車椅子で通行するような歩道や生活道路などの復旧が遅かった。歩行障害があると工事をしている時、外出が自由で

きなくなるのでヘルパーさんの数を増やしてほしい。

道路の整備の問題

「重度障害者」から先に仮設住宅を出ていき「取り残され感」が強くなり「これではコミュニティーがこわれるのになー」と思いつつ、「順番だから仕方ないか」と煮えきらないつらさがありました。「ごった煮」のような老若男女「ひとかたまり」の地域を創るため、「宝くじが当たったよう」な"仮設"や"公営住宅"や"復興住宅"への転居は何とかならぬものか。私たち、精神障害者にはただでさえ「変化に弱い」という特性があります。

以前と同じ生活を望みたい。

代行バスが走る際、車イスでも利用可能かどうか。車イスで通れるように道路を修復して欲しい。

特に気にしない

トイレの確保だけは必ず必要。

車イスで移動して通院できるか？

生活環境の変化に対する適応能力の低さからくる体調の悪化。

工事があるといつもと違った道の様子になり、いろいろな車などが止まるので、車イスでの走行が困難

台風14号で2週間、作業所を休みにし、片付けたのですが、2週間目に、所生たちは、「何でこんなに長い間休みだったの」、「どうしてやすんだの」、「どうしてソファがないの」、「どうして、どうして」と言っていました。どんな風に台風の災害を教えてよいのかわかりませんでした。

わかりやすい情報の提供を望んでいます。

病院までの道の確保が必要。

復興計画策定にあたっては、障害者委員の参画を強く望む。

阪神大震災の時、西宮市で復興支援制度ができて、500万円を借りることにしたが、手続きを始めてからお金を借りるまでに9ヶ月かかった。その間銀行や市役所に何回も行った。他の申請や相談でも市役所などに何回も行った。うんざりした。夕方でないと乗り切れません(個人的なことを書きました)

阪神大震災を体験した私の知っている薬物依存者の中には、復興のプロセスと自らの薬物依存からの回復プロセスをうまくシンクロさせて回復にむかった人もいる。被災(PTSD)からの回復のプロセスと依存症からの回復のプロセスには通じあうところもある。

道路状況など考えると、移動について困難な方が更に増えていると考えられるので、高齢者、障害者の移送体制の充実を考えてほしい。

変化についてきにくい人達、自閉的になることが考えられる。定期に訪問し、その都度の問題を把握する必要がある。

病院、服薬の確保が必要。

支援者が少ない中での当事者のあずかり、復旧活動支援には限界があった。余裕のある施設で日中ショートや緊急のあずかりを行なってほしい。

慣れない場所で、長くらすことは基本的に難しい

少しでも以前に近い生活環境を作ることが大切。

文字のみでなく感情をこめての対話が欲しいと思うの

で、関係者のくだけた雰囲気での会合が望ましい。
道の復旧状況を知らせる体制がほしい。
災害があっても現状の支援を維持してほしい。
設備的問題にはお金を使うが、相談、心理的ケアには十分と言えない。
復旧工事のため非常に歩きにくくなっている所には、警護の人が立っていてほしい。
いつも通れていた道が通れなかったり、来てくれる予定のヘルパーさんがこれなくなったりしたときに、臨時のヘルパーさんが利用できる体制がほしい。
仮設住宅のときと同様、ストレス等、心のケアが必要ヘルパー等人的支援が必要。
臨時のホームヘルプ、ガイドヘルプ体制を希望。個別にニーズを聞く体制も必要。
復興にあせらず、今までの生活を取り戻すことを基本的に進めること。
実際に大きな被害にあってなくても、余震があったり、ニュース等で被災した状態を見たりすると、恐怖でパニックになる。日々のケアを大事にと考えています。
新しい建物には設備を整えてほしい(手すりなど)。段差はなるべくなくしてほしい。
地域連帯・ネットワーク化が進んでいない地域では、住民主体の復興計画に基づいた復興がおこなわれない、行政主導になってしまう傾向があるので、特に媒介組織というべきNPOなどしっかりと障害のある住民と行政との意思疎通を図れるようにしておくべき。
非日常的なことに対応できるシステム(臨時のガイドヘルパー)。障害児の家族にとって、児童の日中の居場所づくりで、片付け、復興のための動きがとれる状況を作り出すこと。
人的サポートが必要。
私どもの施設自体は、大きな被害を受けました。しかしながら社会福祉法人ではないという理由で、公の機関からは一切補助を受けることができませんでした。しかしながら新聞等のメディアに取り上げてもらい、全国から義援金等の支援をしていただき、復興することができました。
障害者というより保護者の問題ですが、被災家族が落ち着いた生活ができるようになるまで、思い知的障害や自閉症の人の生活をみてくださるロングステイの施設のようなものがあれば、と思います。
歩道が凸凹して歩きにくい、歩道の復興が後回しになっており、杖歩行や車イスの方が危険な状況にある。ユニバーサルデザインを積極的に取り入れてもらいたい。
介助体制が崩れるかも知れないので、人と出会える場所があったり、制度がいつもより使えるようになってほしい。
緊張から安心できる場所が必要となる。同じ障害をもった人たちが集えるような、互いに話ができる機会が必要となるのでは？
ボランティア家族他、色々な方に助けていただきながら、通所者・職員で2ヵ月半ほどかかって復興作業に取り組みました。あらためてゆめ風様の援助には心から御礼申し上げます。おかげさまで9/1より安全などこ

ろへ移転となりました。
車椅子の人とか視覚障害の人が移動するときに道の状況が悪いと、車椅子の人が落ちたり、視覚障害者の人が転んで怪我をするのが怖いと思います。
地域の復興状況の情報提供を保障してほしい。(電気・水道・ガス等ライフライン、道路、学校・病院の再開等)
自宅が全・半壊した場合、「罹災証明」「住宅応急修理支援」「生活再建支援」について、必要な情報と手話通訳等サポートを提供する。
避難所生活および在宅復帰の在宅医療酸素のための、搬送ルートにたいする整備情報の開示。
作業所建屋のモルタル外壁が破損し、崩落の危険があったので当該個所のモルタル張替えおよびビス止め等の補修工事を行った。費用は1/2を福岡市の補助金、残り1/2を貴「ゆめ風基金」の支援金で賄うことができた。
工事などで車イスが通行できない場合、迂回路の確保とその情報の提供。
道路や建物の工事中の場合、ガードマンの設置、仮歩道ができるだけフラットであることを望みます。これを機会に工事終了後は素晴らしいバリアフリーの町としてよみがえってくれることを期待し、工事期間中の不便はお互いにがまんすべきところはがまんして乗り越えたいと思います。
長期にわたり仮設住宅での生活となった場合、日中の生活作業所で過ごすことが保障できるのか大きな問題となる。
工事のため、車いすなどでの移動がしにくい。
臨時のガイドヘルパーを早急に対応してください。(ボランティア等の登録)
(1)移動の確保(病院・役所・買出し等の外出は、ボランティアさん等の手助けが必要)(2)住み慣れたバリアフリー住宅が倒壊した場合には、障害者対応の宿泊施設・障害者センター等に入居するしかなく、情報の入手が特に必要となります。行政に携わる人・福祉関係に携わる公的な方々には、ハンディを持った障害者対応については緊急時はみんな同じとの考えを改め、災害弱者への対応を講じてください。
役所とかの相談時には通訳者を配置してほしい。
臨時に利用できるガイドヘルパーの必要性。
復旧工事における通路の確保。
災害者同志の情報交流。地域との絆、つながりが大切。
復興計画作成、実施の各段階において、障害当事者団体、個人を可能な限り参加してもらい、とりこぼしの無い計画とその実施を計るべきでは・・・行政、NPOだけがいくら頭をしばって、これで十分と思える計画を立てても、現実の地域、地域の実情をくみあげることは不可能であり、当事者の参加こそが必要。
移動するのがとても困難と思われるので、例のようにガイドヘルパーが必要だと思います。
工事してもらえらるなら、早くしてもらいたい。障害者は特に道の補修、車椅子で生活している為、段差、工事などで、健常者よりいける場所が限定されてしまう。介助者、同じく被災されてしまうと、介助者が足りなく

なる。一人暮らししているとその問題がこまる。ボランティアのガイドヘルパーさんを利用できるようにしては。日中、施設やグループホームなどに被害が出た場合、それに代わる場所を提供してほしい。復興において、新しい情報が多く出るが、その情報を得ることが困難。情報を流すところを平素から何通りものパターンで固定する。また個人個人で確認しておく。新しい道になり外出できなくなる。平常時以上の歩行訓練を受けられるように配慮してほしい。災害時には家族だけでは対応しきれないことが起こりうると考えられる。その際に緊急時の受け入れ体制、ヘルパーを利用できる体制が整っていれば、本人、家族の安心にもつながるように感じる。通り道はある程度安全が保たれるように配慮が必要。工事をする音でイライラがつのり、パニックに陥る場合がある。交通渋滞などで病院に行きにくい。また、必ずかかりつけの病院が診てくれるとは限らない。医師や看護士の技術・人間的成長を期待したい。水や食料をもらうために列に並ぼうと思っても、呼吸器をつけた子ども連れて並べないし、家に一人残しておくこともできず途方にくれたと聞いた。変わりに並んで届けてくれる人を派遣して欲しい。仮設住宅などはもともと住んでいた場所に立つわけではないので、まったく知らない土地で生活保障がいかにかできるか想像がつかない。いくら、仮設住宅といえど、外出する際の移動保障についても考慮が必要。障害をもっているために、健常者では何でもない作業が困難な場合があります。救援ボランティアの窓口をお願いしても、より重労働の作業に人手が必要なため、軽度の作業救援は後回しにされ、結局自分で時間をかけて処理したという例もありました。障害者専用のボランティア窓口、もしくは障害者支援センターの設置が必要であると思いました。

日常の備え

電話による連絡しかない。FAXはできるが。避難場所の確認しかしていない。警報発令の場合、電話連絡網は常備している。災害時にはそれを使って安否確認できる。していない ラジオの電池を切らさないようにしているくらい。ふだん来てくれているヘルパーには、地震の時などに必ずここに障害者がいるとみんなに言って、と頼んでいる。緊急時の連絡先を確認している。緊急時持ち出し袋は用意している。私は障害者作業所に行っています。例のように災害について話し合いをしていないし、どうするかも相談していない状態です。家では、家具を耐震器具を使って固定したり、防災グッ

ズを用意したりと、一般の方と変わりません。でるかぎり友人を多く持つことしかないと思っています。ミネラルウォーターのペットボトルとヘルメットを置いている。常に身分証明になる障害者手帳や連絡先などを持ち歩いています。作業所で少し話し合ったことがあるが、具体的にはまだ。メンバーは近くの人が多いので、直接様子を見に行く等。作業所の運営会議で防災について話し合っている。作業所近隣の住民、町会との関係づくりに努めている。自然災害ではないけれど、事務所荒らしに遭い、警報装置を設置したら、誤作動で夜中に警報が鳴った。連絡を受けてスタッフが駆けつけたときは、隣の会社の方、前の整骨院の先生、町会の隣の住民の方、町会の役員さん数名が駆けつけて、警察への通報や周囲の確認などやってくれました。連絡網の整備 避難訓練の実施。身近な人に連絡取れるように携帯メールの連絡先をさせている。避難先も決めている。災害が起こった時点で死んでしまうと思う。(不整脈が出る) 昨年末に、自分が所属する身障者の団体が台風のことで話し合った。定期的に持った方が良いと思う。(1年に1回程度) 自分が通う共同作業所で、緊急時の安否確認やその地区での避難所は"ここだ"との訓練を再三行う必要があると思う。水害の時とか地震の時、家族の間で、各人がどのような役割をするかを、平時相談をし、また時々そのことを確認するようにしています。特別な備えはしていないが連絡先を決めている。地区自治会で話し合う。特に行ってないが、緊急時の備品の準備をしておきたいと思います。また、作業所での練習があればよい。まだ備えは家ではしていませんが備えはしようと思っています。通所時ヘルパーさんと外出している時に、災害にあった場合等についての対処方法を考えている。通所施設内にて色々の備えがなされている様子。年に4回位、作業所の避難訓練の時に連絡網をつかい、家族との連絡をとる練習をしています。障害があるからといって特別な事はしていないけど、家族みんなのために最小限のそなえはしていますが、もう少し見直す必要があるかと常に思っている。自分の家でも災害の備えについて話し合いを行っている。地震の時のために、くつを枕元に用意している。現在のところ当法人では特別な備えはしていない。今後整備が必要と考えている。また、行政区ごとの社協を中心にした緊急時の体制整備をはかりたい。防災組織の確立と避難訓練の複数回の実施。最近、当集合住宅では防災についての話し合いが始まった。

障害者作業所（七つの海さん）にまかせています。時折の練習は必要と考えますが、人や時間の不足のためなかなか避難訓練ができません。

備えをしておかなければと思いつながらできていないのが現状です。

ふだん災害時の訓練をしてほしい。

障害がある為に、どのようなことを行うのかわからないし、訓練もなかなか難しい。

地域で生活していることを知ってもらう様、自治会のイベント等に積極的に参加するように心がけている。具体的には考えたことないです…。ただ漠然と「職場は病院（医療事務をしています）だから、何かあったとしてもそのまま職場にいた方がいいかも…。」なんて思ったりしていました。

特に行ってはいないが、安否確認をこまめにして常に万全の体制を取れるようにしている。

平時より当事者団体と支援団体が協力し、また行政もこれを支援するよう対策すべきです。

精神障害者の場合は、身体は不自由がなく、知的にもある程度の判断力のある方が多いので、災害時の時よりその後のケアが大変である。トラウマで通所できなくなった方がいました。また行政の義援金はハードルが高く80万以上の修理費しか出ないので、それに比べるとゆめ風基金の支援に感謝したい。

阪神淡路大震災のとき、家の柱がずれ、壁にひびがはいったのに、市も大家さんも何もしてくれませんでした。ただ大家さんは少ない家賃で住まわせてくださっていた親切な方なので、何も言えませんでした。

特別な備えは特にしていないが、病気に関連する絶対になくしてはならないものはまとめて荷物を作っているが、実際、災害に遭うと持っていけるかどうかは不安に思う。（例えば紙おむつカテテル、薬等）

利用している療護施設においては、火事に備えて定期的に（半年に1回くらい）避難訓練を行っているが、今回の地震で施設職員を含めて皆さんが落ち着いた行動をとることができた…。一因かもしれない。

地域の人との関わりがものすごく大事だと思うので、日頃から関わりをもてるイベントなどが必要だと思う。地震の際、停電のため私の生活に必要な福祉用具のほとんどが使えなくなり困ったという経験から、停電に備え小型の発電機を一台用意しました。

緊急連絡網を作成し職員等の迅速な情報収集体制を図っている。

この質問は無駄。経験者から言うと、ふだんから備えていても自然災害になると自分の身を守るために逃げるのが肝心。

知人や友人に連絡をしている。

避難方法で述べたように木造家屋での浸水や地震を何度も経験しているので、耐震工法が得意な大手建築業者によるRC構造のビルを12年前、59歳で漸く建てたのが、即ち高潮や地震に対する備えと思っている。建築後1年半後の阪神・淡路大震災にクラック一つ生じなかった。私共だけが安全なら良いのではなく、4Fから8Fまでがマンションなので、その空室に障害者・高齢者を受け入れる気持がある。

現在特別な備えはしてないが、自然災害の内容が雑多のため、正直何の備えもしてない。

している。さらに充実したい。

電動ベッドに停電しても動くようにバッテリーを付けた。人工呼吸器を使用しているので停電しても使えるようにバッテリーを購入した。今後、バッテリーをさらに購入する。小型の太陽電池を購入し長期の停電（2-3日）に備えたい。

恥ずかしながら、特にしていません。

常備薬8種類、3日分は常に持ち歩き、水を家の2カ所に分けて置いてあります。

早めに薬を医師から貰うようにして、せめて1週間分は自宅に残るようにしている。

『東海地震』に備えて、官民揃って、かなり整備されています。

なので、個人的には特別な備えはしていません。

視覚障害者は日常が非常時体制のようなもので持ち出し・携行・貴重品の整備はしている筈。むしろ単独避難の場合はこれらの保管管理が問題になる。対策を一考する必要アリ。

停電即命につながります、予備のバッテリー、発電機、発電機用ガソリン、DC-ACコンバーター、車の燃料は何時も満タン、緊急連絡用無線機（アマチュア無線）等を用意しています、その他地域の人に我が家に呼吸器を付けた障害者が居ることを常日頃から知らせている。

障害のことを考えた備えをしている。

例えば、白杖をベッドの側に置いている。非常持ち出し袋を寝室に置いてある。

特になにもしていません。今後、すこし考えなければならぬと思います。

親との連絡不能なら来てくれる。

医療的自己管理に必要な機材の避難セットを作って身近においてある。車は満タン、飲料水や食料を常に一定量保存（使いまわして保存期限に対応） テント、寝袋、調理具等をパッケージにして屋外で保管。関係団体のネットワークに登録。

当事者参加による避難訓練の積み重ねで啓発・さらに救命講習などに積極的に参加してもらう。

自治会等との話し合いで地域での障害者サポート体制を普段議題に取り込み意識を強くする。

個人的には今のところ何もしていないが、前に一度、市民全体を対象とした避難訓練を実施した。

緊急時の安否確認や情報の連絡網について話し合いは行っている。

障害者作業所で連絡網による確認ができるようにしている。

下肢障害のため、平素は車で移動しているが、道路状況等で車での移動ができないときのために、松葉杖、ステッキは常に車に積んでいる（震災のとき、松葉杖がなくて、とっても不安だったので）

当センターとしてそのような取り組みなどは行ってません。しかし、今後の取り組みとしてこのアンケートを機に検討していく必要性を感じています。

障害の有無に関係なく、最近緊急袋とかを用意してま

す。
具体的にどうしておけばいいかわからないので特にしていない。三日間の食料や水などは常備しておけと言われていますが、全く歩行ができないため、自分の届く所に常においておくことは難しい。トイレもポータブルなので、災害時はたちまちに困ると思う。すぐに義足を出せるようにしている。車のカギも取りやすいところにおいている。
特にしていないが、家族で避難する場所について話合っている。
災害などを想定して携帯用のラジオ、ライト、携帯の充電が行える機械を買った。
精神障害者にとって、精神薬は欠かせないものです。しかしいざとなれば病院も診療所も機能しなくなります。「隣県」でもよいから知り合いの医者を探しておくことです。他に精神医療人権センターとか、同類の専門職場も。

団体取組み

総会や研修会等で経過報告し、当事者や家族の方への意識づけを図るとともに、地域との関わりを深めるよう努力している。
小さな作業所ですので、単独ではしていないが、神戸ウエストネットや西神福祉がらばってる会の人たちとのつながりを大切に、協力してもらっています。関心はあるが、行動はしていない。
阪神大震災、新潟地震、カンパ活動、募金。防災マニュアルを作成した。
今年12月、障害者の作品展で中越復興市民会議の事務局長に来ていただき講演していただく予定。
地域に(小学校区単位に少なくとも1箇所)拠点を作り、そこを核にネットワークを生み出そうと努めている。連絡網、連絡体制をきちんと作りたい。助けが必要なとき、どこに連絡をすべきか、はっきりさせておく。
市で防災マニュアル作りに取り組んだ。
以前イベントを行い、収益をカンパした。現在防災について考えていこうと思っているところです。
法人として防災訓練を年1回行なっている。防災マニュアルはないが、市や社協で行なっている防災訓練に参加したり、緊急時の連絡の方法は確立している。
・地域の防災コミュニティに参加、研修、シンポでは積極的にとりくんでいる。
・防災訓練などについては今後の課題としては考えている。
・法人にとって震災については大切なテーマでもある。ありませんが必要とは思いますが。
保護者会と共同で障害者の送迎をした。
避難訓練と防災マニュアルの作成。
当会にはいくつかの拠点があり、それぞれの場所を避難場所にすることがベターであり、大きな災害の場合は空間的に広い場所、周囲の騒音をさえぎれる工夫ができるところがよい。

マニュアル作りまではいかないが、保護者を対象に勉強会を昨年行なった。また独自に運営するセンターが災害時有効だったため、本園も運営している。
例文の意見はもっともだと思う。そういう計画、支援等は障害者の立場を考えないことが多く、もっと現場の意見に耳を傾けるをもっとしてほしい。
過去において取り組んだことはありませんし、今後も予定にありません。
防災マップ作り(現在進行中) 防災セミナー(2005年3月)主催。
阪神大震災のとき、当作業所の有する宿泊部屋や、風呂を、被災障害者に貸したことがある。
大震災時に同障害者支援活動をした。現在も全国各地での自然災害、震災などの募金活動をしている。
年に2回、避難訓練を行なっている。法人設立時に防災マニュアルを作成し、防災、減災にとりくんでいる。
阪神大震災の時、次の条件のいずれかに当てはまる人は、国民健康保険の保険料の払い込みが1年間免除になります、などと言って、いくつかの条件(母子家庭、身体障害者、被爆者、高齢者世帯など)が挙げられているのですが、1つだけあてはまる人も、2人以上あてはまる人でも、1世帯のうち1人が適用を受けると。他の適用は受けられなくなってしまうのです。それはおかしいと思いました。
様々な助成支援制度ができたが、それを知らないと利用できません。自治体が発行する情報紙を隅から隅まで読むのは疲れる。大きい見出しをつけて「の人は・・・」という風に自分に関係する所を見つけやすいように、更に、すごろく形式でYES、NOで進んでいって、その助成、支援が受けられるのかどうか。申請する場合には、何が必要なのかにたどりつけるように書いてほしい。「・・・は除く」という書き方はややこしい。体の具合が悪い人や、目や耳が不自由な人にも、情報が伝わるようにしておかなければなりませんし、本人に代わって手続きをする人が必要です。
今まで、防災についての話し合いをしたことはありませんでした。これから月1度の例会時に防災について話し合いたいと思います。
2006年1月にイベントあり。
ありません。会報で取り上げるつもりです。
絵カードや写真を使っただけの非常時の対応や準備について話し合い。
会独自として取り組みの予定はない。東京都が平成11年3月に発行した災害弱者震災対策検討委員の一人として参画したことはある。
薬の種類がわからなくなると困るので、処方の際にもらう説明書を作業所で一括して保管している。
被災地現地調査、お見舞い、アンケート調査を実施。防災マニュアル作りを県、自治体に訴えた。当会の役員会、総会に報告済み。
考えていませんでしたが、必要ですね。私たちの施設のある地域で何ができるか、今後考えていきたいと思えます。
ILセンター内で、スタッフ全員の緊急時の名簿を作ろうか、という段階で特には無い。

特になし。平成7年の震災時は電話連絡をし安否確認は行った。

当作業所としては、被災利用者の見舞、救援物資の優先配布などを行いました。

年に一度は災害について話し合いを行っている。

毎年、緊急連絡網は作成するようにしているが、特別な備えというのはしていない。今後、保護者会の際等に話し合いを持ち、緊急時の対応を検討しておくようにしたいと考えている。

役員会での検討、話し合いはあったが、まだ具体的には動いていない。

緊急時の対応マニュアル内にて火災、地震等の対応について明記しています。避難場所としてリハビリセンター、行方不明時には近隣のタクシー会社に探してもらえるようになっていきます。(全て個別にお願いしました。対応マニュアルも)

防災についてもっと話し合うことが必要だと思っている。

緊急連絡網を作成し、緊急の場合など、すぐに連絡ができるようにしている。避難訓練を毎年2回行っている。地域のマニュアル同様、広域的はマニュアルも必要。今後、県、育成会等にも申し述べたい。

私達患者会としましては、平成12年6月定時総会に於いて毎年重点運動方針として、防災・医療緊急対策を、大阪府・大阪市・羽曳野市等自治体に提出時、会員交流会にて検討し、その意見交換の結果、提言・陳情として作成し提出いたしております。

2004年12月に阪神・淡路大震災メモリアルイベントを神戸にて開催。

10年前の震災時、視覚障害者はどうしていたのか、その救援、支援体制はどうだったのかを、視覚障害被災者の体験発表や実際救援活動にあたった支援者の講演、パネルディスカッションを通して、あらためて検証。今後に向けての提案を行った。その記録本として、今年9月に「視覚障害被災者の10年」を出版。引き続き、被災地神戸より視覚障害者を支援する立場として発言し続ける所存である。

防災訓練の実施。同じ区内の施設と連携をとり、メールなどで連絡合っています。地区の防災訓練に参加し、アピールしています。

緊急時、病歴カードを提案され試作として作ったことがある。

今後の重要検討事項ではあるが予定のめどは立っていない。

ありませんが、会報に別紙の資料を載せました。

防災マニュアル・・・福祉協会(施設)に作成を要請中。シンポジウム・・・2005年12月9日(金)に福祉協会と共催。

防火訓練は年一回行われている。防災訓練は特にはないです。

阪神大震災、スマトラ沖津波、中越地震等、大規模震災のたびに救援対策本部を設置して、全国的に救援活動を展開してきました。

2005年度は、会員手帳に「聴覚障害者向け災害マニュアル」を掲載して、会員へ配布した。事前の対策、被

災時の対策、復興取組み、質問用ページ、非常持出品リスト等を記載した。

2006年度は第54回全国ろうあ者大会で、「防災」問題の研究分科会を実施予定。

阪神大震災を機会に「災害救援基金」を設置して、災害のたびに被災者への救援に役立てている。

(1)1995年1月17日発生の阪神大震災の折には、(社)全脊連として支援物資・及び支援金(会員に呼びかけを行い)を募り、被災者に配分した。(2)会報(全脊連ニュース)で大々的に取り上げ、被災者支援を行うと同時に、会報で自然災害対応などの喚起を会員に行った。(3)阪神大震災の折には被災地に直接会員が向歩き、様々な支援活動を行った。

特にありませんが毎月避難訓練をしております。

これまで防災、減災等の取組みや被災した場合のマニュアル作りをしたことはありません。今後も予定はありませんが、これを機会に近畿在住の私たちは近隣の神戸から教えていただいたり、学んでいく必要を感じました。

八尾障害者ワーキング会議のメンバーに当センターから数名参加しており、防災マニュアルを作成している。シンポジウムや講演会を今年度中に予定。

市内要約筆者と住所のわかる中途失調者との情報システムはあるか?極一部であるプライバシーのの関係?90%の聞こえない人々の対応啓発を考えるべきと思う。そのためのシンポジウムは必要である。

バクバクの会で防災ハンドブックを作成中。各支部で緊急連絡網を作っている。

避難できない場合、避難所へ行かないほうが良い場合、近所のサポートもない場合(サポーターも罹災していることもある)など、支援、援助が来るまでの間(3日間程度)の物品のストックが必要。

中越地震の時は、被災地障害者センターを通じて3万円のカンパを送った。スマトラ沖地震の時は、スリランカで活動しているNGOに物品と3万円をカンパ。防災マニュアルは作っていないが、早急に作成したいと思う。

自宅生活なので特にしてはいない。

中越地震のとき、被災者のところに回ったりした。支援をしてきました。

阪神大震災のときに、救援本部にスタッフ及び介助ボランティアを派遣しました。

阪神大震災の時の問題点を理事会で話し合い、災害時の支援ネットワークを作る必要性は感じているが、取り組みは全くできていない。予定もなし。

被災障害者に連絡をとって(取れてからになるが)その都度必要な支援(物資、人的)を行っていた。

障害者相談員にかかる研修活動を行ってきた経緯があることから、これらの相談員らに対して、特に緊急災害時での障害者・高齢者避難にあたって、敏速な対応ができるよう、日常から自治体の防災関係部署とも緊密な連絡体制を取るよう、会報などでよびかけしている。

支援活動としては、新潟中越地震で義援金を募った。近く、被災障害者に配布する予定。

支援できること

まずは災害があったところの片付けや炊き出しの手伝いはできると思います。
片付けの手伝い。話し相手になってあげる事。
可能はことがあればやりたい。
町内会（自治会）単位での支援。
ネットワークの利用はあまり期待できないと思う。
父親が肢体不自由なので水害の場合は私が父を背負って、二階に避難。地震の場合は先ず私が戸を開け父を外に出すよう母と相談をしています。
初期消火、バケツリレー等。
皆でやる事なら今のところ問題なし。
家の復旧作業を手伝うこと。
ボランティア、炊き出し等。
自分が動ける範囲内で、被災した人を励ますことくらいしかできないと思う。
保護者会で協力してできることをしたい。
電話相談ならできる。
どんな支援ができるのかとか わかりません。
身のまわりの相談をひきうけるなど。
炊き出しや介護の手伝い、相談など。
障害者と幼児が家族内にあり、また老人をひきとる可能性もあるため、他者への支援は困難。
協力できることがあればできるだけやりたい。
作業所で炊き出しや場所提供をする予定で、ボランティアで参加します。地域でも、ネットワーク作りをして、支え合う関係をつくり出したいと学習会をしています。
自分のできることは何でもするつもりです。たとえば障害者を励ます事。お年寄りの世話。炊き出しなど。
自分達のもつ備品や、ネットワークを利用して、炊き出し、介護人の確保と派遣、避難誘導、電話相談を行うことができる。
水害がおきた時や地震などの時、水はけ口などに気をつけています。
皆と協力し合う。
電話相談等、座ってできる事務的なこと。
その場にならないとわからないが、様子を見て駆けつける。
できるかぎり利用者さんの支援をしていきたい。
電話でボランティアを募集する。
電話をして安否を確認することからなら始められる
Eメールでの伝達が可能。携帯で伝達可能。
障害者でも使いやすい施設の紹介や、その他の情報についての相談ができると思う。
電話相談をすること。メンバー同士の連絡をとること。
私は障害者ですが、災害があったとき、できるものがあれば、そのときに協力くらいできると思う。
炊き出し、宿泊用に家を提供。
炊き出しの手伝いができる。
インターネット関係。
ボランティアとしての助け合い。(水害等による家の後片付け)

これといって、今は何も考えていない。
何かをしたいけど、何をしてもよいかわからない。
お弁当を作ってもっていく。一時的に居候してもらう。
近隣の障害者(独居老人含む)の安否確認、避難所への誘導、仲間と協力して情報収集、状況に応じてできることをやる。
一緒に生活して手伝えると思います。
家庭訪問。
職場のネットワークを使って応援を求めたり、安否確認等の支援はできると思う。
震災時、安否確認に名簿を頼りに探し回った経験や、対策本部での活動から被災者の相談にのることができると思う。
自分達のもつ備品や、ネットワークを利用して、炊き出し、介護人の確保と派遣、避難誘導、電話相談を行うことができる。
自分が動いての支援は、なかなか難しいと思います。通信手段が回復したり、自分も車で動けたりする段階(災害の復興過程の中間以降)で、何らかの役割を果たせると思います。初期段階では、本当に身近な人だけとのやりとりになると思います。
電話相談ができる。メールで相談ができる。
はげますことができる。
机の上で出来る作業や、あまり動かずに出来る作業なら手伝えると思います。
私のアイデアが実現されているならば、FMラジオの点検を怠らず、災害時に情報伝達の核となる。さらに闇夜では健常者の誘導も可能と考えている。
障害を持っている仲間に電話での相談相手になれる。
ヘルパー2級を持っているので役立てることが出来る。
電話連絡ぐらいいしかできないかなと思っている。
電話等で連絡をとるといった支援はできます。また、食事介助といった、わたしにできる範囲での介助支援をすることはできます。
自身が被災したときは、1週間は持ちこたえられるようにしている。連絡の中継、被災者支援グループの結成、必要に応じて人員派遣。被災した近隣県や市町村への連絡係、支援物資の取次ぎ。
防災士というネットワークづくりに現在動いております。そのときがきたときに、ボランティアや被災者などを公的機関が到着する前に避難所の設置運営などのアドバイスができていく。安否確認等に協力できる体制と考えています。
当事者のネットワークが何通りかの方法を確認できていれば支援は可能と思われる。
もしインターネットや携帯が使えるようであれば、同じ症状の患者に情報を流すことができます。手元に多く薬があれば真っ先に必要な方に分けることができます。
障害が異なる障害者への介護方法を連絡できる。
被災者やボランティア、防災の方々に対するマッサージなどによる心身のケア？
電話で友達の安否確認ができる。
災害がおこったことないのでわかりませんが、できないと思います。携帯のメールは家族や知人ヘルパーに

できると思います。
具体的に思い浮かばないが、そのとき自分にできることはやろうと思う。
防災計画に障害者を入れていく計画作成はもちろんのこと、例えば防災グッズ。デザインや仮設住宅を建てる際にアドバイザー的な感じでもいいのでぜひとも当事者の声を聴いてほしいと思います。
自分のペースで力仕事以外ならできると思います。職場のお客さん(当事者)を訪問したり。
今は何もできないが、早急に地域住民のネットワークづくりは必要だと思う。
電話連絡(安否確認)
支援ができるかわからないが、できる事は支援したい。携帯電話を利用しての安否確認(知り合いの人など)何もできないと思う。
電話相談ぐらいなら出来るかも知れない。
現地にかつつけて被災者の要望を聞いて、必要な対応をする。資金カンパ等をする。
私たちネットワークで精神薬を(「代理」という所が法的にも難しいのですが)届ける、または連絡役になる等、相談(ピアカウンセリング)も含めて多様な支援ができると思います。
まずは居住するものが人命を奪うことが多いために、家具などの固定や耐震補強。その後、人命優先で動く組織作り、その後避難所を運営するという組織を作る。
まず自分の家族の安全を確保した後、災害状況によっては行動を起こすと思う。但し心身が健康であれば、保護者としてネットワークを利用している。
10年前の折は、何も手の出しようがなかった。学校などで人の世話や、安全の指示はできます。安全な場所で譲りあっていくことはできます。
ボランティアセンターに問い合わせ、自分が手伝えそうな支援物資の区分けや炊き出しの手伝いなどをする。
電話相談
障害者自身がまず判断力が必要で、障害者として心のケアがまず一番大事だと思います。そして、心を整理して判断力をつければ、少しでも多くの人と支え合うサポートができると思います。
私が在籍する(全脊連、千葉県支部)では、各役員が携帯メールにて連絡できる体制作りをしている。また、全脊連では会員に対し支援金を募り、災害にあった会員を支援する体制になっている。
そのためのネットワークを作りたい。
子どもの心のケア、子を持つ親への支援。
一人では何もできないと思う。
知人や親類へ電話相談はその時の災害によるができるだけしたいと思う。
どのような支援ができるかどうかは経験がないからわからないが聴覚障害者の筆談(手話ができない)や炊き出し等お手伝いは可能だと思う。
)私は自分の暮らしている地域に自立生活センターを作りたいと思っています。今はまだ1人なので何の支援もできないと思いますが、もしそうした当事者団体を作り、どんなに小さくても地域の中にネットワークができれば、災害時の安否確認や介助のボランティア

の調整などができるのではないかと思います。
自分または家族が安心できる環境にあれば、出来る限り他者への支援をしたい。
ありとあらゆる事をやったよ。
水害の際には家具類の撤去や掃除にあたった経験があります。
とくにはないが自分所に有る衣類など必要であれば出せるとおもう。
避難して来る人があれば拒まない。1階には車いすの共用トイレもあるので、高潮による浸水がなければ、使える可能性がある。エレベーターも同じである。隣が警察署であることは、避難生活には有利だとの判断は甘いかも知れないが、情報も救援物資も人的支援も早く伝わるような気もする。
自分で出来る支援はないに等しい、精々情報を伝えるくらい。
NPO法人でヘルパー事業所をしているので相談・ヘルパー派遣など様々な支援ができると思う。
隣近所での復興支援。
情報収集。

団体要望

10月10日「日本障害者リハビリテーション協会」主催の「障害者と災害時の情報保障」～中越地震の経験と新たな取り組み～に出席、意見発表しました。
自費で中古住宅を購入し開設した作業所ですが、現在もアスベストが気になっても、経費がなく検査も受けられません。大切な命を預かって日々奮闘しているのですから、法人格のない作業所にも防災のための予算が欲しいです。
避難訓練時、客観的に見て、(一緒に参加していただいて)気になる点、アドバイスをいただければありがたい。
難病医療も参加して、難病医療が継続して受けれるようにしてほしい。
上部団体の指導、講習を希望。
当時間の参加はもちろんのこと、各地区、地区において、支援団体や施設、作業所での意見の聞きとり調査や、意見、希望の集約をお願いしたい。
防災計画の作成にあたっては常に障害当事者団体も委員として参画する必要があると考えるし、強くそれを望んでいる。
個人情報保護などといわずに、聴覚障害者への緊急連絡網整備、活用をお願いしたい。様々な障害種別に、各々の対応策があると思うが、一見大きな問題がなさそうな聴覚障害者(特に中途失聴者、難聴者)は、災害時に一番取り残される障害者でもある。ご配慮を。まずは早急救援 救援策の検討 実施 現状の正確な情報把握。
貸し家を利用しているが、家屋の耐震対策および家具等の転倒防止策を考えていただきたい。
河川の近くにあるので、堤防の補強など、水害対策の配慮をお願いしたい。

災害は、何がどのように起こるか予想がむずかしいものです。数年に1回でも阪神の経験ある団体（行政担当者でも）が、各施設をまわり、被害を小さくする対策、アドバイスを現状に即して伝えてくれる機会を持ってほしい。

防災対応マニュアルなどを作成してほしい。

障害者の意見を取り入れた行政を行ってほしい。

防災計画に障害当事者も参加の上で会議を開いてもらいたい。一度、避難所まで歩いてみたい。

障害者支援センターの設置。民生児童委員への障害者名簿の提示。上記例の通り、防災計画策定メンバーに障害者も加えていただきたい。

炊き出しや電話相談くらいは協力できると思います。

情報の保護。

救急体制（相談と医療相談）の充実。

障害者は特別な人種ではなく、同じ市民であることを認識してほしい。

できるだけ狭い地域の中で、短時間に避難できるように計画を作るべきだと思います。（移動が困難な方が多いため）

当事者の参加。

家族にも情報を流してほしい。

マニュアルを具体的に生かせるようにシステム作りを急ぎ、訓練も実施してほしい。

防災に関する（特に障害者対応の）学習会等の開催、案内があれば助かります。

行政が全体として避難計画を立ててほしい（お年寄り、障害者を含めて）。

精神障害やてんかん、重心、人工透析など、一日も医療と切り離せない人たちへの緊急災害時の医療の確保についてのシステム化。

法人化された大きい施設は比較的対応が早く行われると思われるが、小規模で個人経営のとき敏速な対応がないのではないかと心配。

人的支援によるサポートがもっとも有効だと思われる。市としてのマニュアル作りやマップ作りに参加させてほしい。また、災害時に当団体の会員のみでよいので安否状況等の情報を入れてほしい。

障害者が日常から暮らしている住環境はとても貧しいものがあります。低収入（「障害年金のみ、生保受給時）では限られたものになるからです。阪神地震の時も、1階の共同住宅にたくさんの方が住んでおられ、大変な被害にあわれたと聞いています。常日頃より障害者の住環境は、もっともっと配慮されるべきだと思います。非常時、災害時には「みなに平等に！」という意識では、到底弱者には、元気な人々が享受できるものさえ、手が届かないものになります。「平等に」の、かけ言葉だけでは、何の保障にもならない為、障害者、老人の方々へは特別な配慮が必要です。防災計画の中には、絶対盛り込まれるべきです。

防災マップをすべての地域に配布してほしい。

市民の一員として扱ってほしい点と、やはり特別な配慮がほしい点と、両面を考慮してほしい。

社協にロールプレイで障害当事者、介助者を参加しての計画をしてもらっている。

必ず何かできるが、今は答えられない。

防災計画を立てた後、正確なもの、情報を密にとってほしい。

障害者を含む災害弱者といわれる老人たちが最後に救出であったり、今回のアメリカのハリケーンでの実態のように施設に老人を置き去りにして職員が避難などすることのないような体制作りの基盤をきちんと作ってほしい。

障害者もスムーズに移動ができ、安全が守れるということはすべての方にも良いことだと思います。施設についても同じで、車イス使用者が利用できる仮設住宅や避難所が充実して、日本中に広まることを期待します。

災害を体験した精神障害者で講演できる人の情報がほしい。

災害弱者の支援指針を当事者参画で地域ごとに作成してください。

ネットワークをしっかりとって、災害状況の確認と今後の対策を考えていく。障害者の動き、防災の動きを含めた防災計画を作してほしい。

バクバクっ子の生活に特化した必要物品など、会員間でストックを出し合い届ける。電話での安否確認。

必要に応じて、関係行政機関へ交渉しています。

障がい者や当事者団体が参加して防災計画を作ったほうが良い。

平時からのネットワークづくりに取り組んでほしい。

例と同様のことを考える。支援団体がつくれるかが心配。

障害の有無に関らず、地域で協力していく必要があると思います（防災訓練等）。どうしても孤立化してしまっている部分がありますので。

インスリンが手に入らないので緊急手帳を作って欲しい。

例で示されたことに尽きる。その際は、地域にある社会資源をどれだけ防災計画に取り込めるかが最大のポイントである。障害分野にとどまらない、地域で幅広く協力を求める姿勢が、住民・団体側にも行政・支援団体側にも、特に大切となると考える。

身体障害者だけでなく「目に見えない」障害者（内部障害、聴覚障害、言語障害）にも配慮してほしい。

車イス、体温調整等難しい方のことも考えての計画を、対応を考えてほしい。

障害者といってもさまざまなので、その人に合う支援ができるようにきめ細かな対応をしてほしい。

障害者を中心に防災マニュアルを作成すれば、健常者にとっても良いマニュアルができると思います。

日頃からの街づくりの中で実施してほしい。

私達、内部障害（呼吸機能障害）者としての特異性に基づき、当事者団体として、単独にて毎年定例議会（6月・9月・12月・2月）毎に直接提出しており、平成12年度より継続提出中。

医療機関とのネットワーク化。特殊な加療をしている患者等について、地域の医療機関と専門病院とのスムーズな対応を求める。希少難病なので、団体としての行動は難しい。

緊急時における安否確認など支援のネットワークづくりを一緒になって考えてほしい。もっと災害弱者のニーズを知ってほしい。

- (1) 災害時要援護者の避難対策等に関する検討委員会には当事者の参加を行ってください。(2) 行政は当該地域における障害者の存在を確認しておいてください。
- (3) 行政は自然災害発生時には、地域における障害者の安否を複数人で確認する準備をしておいてください。
- (4) 自然災害発生時、重度障害者一人では、身動きができない。この対応を講じておいてください。(5) 指定避難所は、障害者対応としてください。(6) 避難所には簡易トイレ・医薬品・集尿器・紙おむつ・簡易別途・消毒液・褥瘡マット・車椅子用パッド・カテテル等の準備をしておいてください。(7) 非常時対応マニュアルを作成してください。

薬品の確保

障害者もですけど、地域に合った避難所の設定や7つ道具などのためにも住民参加で協議するべきだと思う。障害者の「地域生活への移行」が志向されている昨今、「防災」についても「地域福祉計画」の中で共同参画が望まれる。

医療提供体制の検討に患者団体も加えてほしい。一人一人のニーズをきき、柔軟に対応してほしい。介助者も被災しているので、介助者が不足しがち。反対に、住宅が変わったりするので障害者にはいつもより介助や援助の手が必要。制度上、いつもより介助時間を延ばしたり、二人介助をつけるなどの柔軟な対応がほしい。一人一人のニーズをきちんと聞かず、全体の決まりだからと決まりきった対応はしてほしくない。

防災マニュアル等支給してもらえれば・・・

昨年度台風23号の折には作業所に併設されている児童館は避難所の指定を受けた。近隣の方々や利用者の家族の方への炊き出し、作業所を宿泊場所として使用していただくことができるのではないかとと思われる。

まず、当事者の声を最優先に聞いていただきたい。

支援者も当事者と共に訴え続けていくために、金銭面、ネットワーク面での負担は大きく行政にはバックアップをお願いしたい。

その他要望

ヘルパーさんをお願いするにしても、今の体制ではうまく機能しないと思う。

障害者自立支援法が国会を通ると、ますます費用がかさんで、生活ができないし、いざとなればどうなるか心配です。

ボランティアを探し、障害者の立場で気づいたことをする。

災害が起きると支援者も被災者なので支援できなくなるのではないかと。被災した利用者に介助が不足すると思う。

緊急時の行政の体制(広報車の巡回、緊急放送)を準備してほしい。

地域の中に障害者がいるということを知ってもらえ

る企画をしてほしい。普段からのつながりを作ってほしい。

行政(市役所)などとの連絡。

ヘルパー自身も被災することになるので、介護の手が足りなくなることが予想されるので、緊急時のヘルパー支援の体制をあらかじめ作っておく必要があると思う。電動車いすが壊れた時の修理など、頼めるような体制や連絡網があればいい。

誰かがそばにいと安心できる。

障害者から、急なヘルパーがほしいです。

障害者はなかなか災害時に自ら動くということは難しいと考える。したがって

家そのものが損壊しないような耐震対火構造などによることへの支援。

自分が自宅などにいて、それを見つけてくれて救助してくれる仕組みづくり。

避難段階、復興段階などでの中長期的な支援の方策などが大事だと思います。

以前に台風で断水のと、近所の人がバケツに水をくんできてくれた。

カンパ活動をするとうい。

対応は常に状況次第なので、基本的には日常的にいざという時情報を収集し、対応を相談できるネットワークを構築しておくことが最重要。障害者団体間はもちろん、やはり日常生きている地域との関係づくりも大切。行政や政策的働きかけはもちろん、関係づくりは日常の中での積み重ねが必要。

緊急時のヘルパーを日常より依頼しておく。

聴覚障害者をサポートする手話通訳者や要約筆記者の被災。情報保障をする人が足りなかった。また各種証明書をもろうために情報保障のサポートがなければ市へ行くこともできない。家の修理をするにも業者との打ち合わせができないので、情報保障者の確保ができるように準備してほしい。

ヘルパーを確保してほしい。

緊急時のヘルパー支援を準備してほしい。

現在の所、自分なりの移動ができるので、炊き出しや、食事の件をすぐできるように準備してほしい。

災害の場合、まず家族が助け合うことを心がけております。

緊急時の拠点をどこにするか、行政がきちんと示すべきである。

緊急時サポートしてくれる人がほしい。

近所の人に僕らがいることを認識して助けて欲しい。

緊急時の支援を行う拠点を準備してほしい。

被災時に自分の通う通所施設に避難の受け入れをしてもらえた。そういう施設を増やすべき。

地域の人々とかむすびつきも大切。

いかなる災害にも行政の準備はしておいてほしい。今回、避難以前、災害の原因となる雨や水に対しての情報が少ない。

平日頃の近所との付き合いが大切で、いざその時に助けにきてくれる関係作りと、災害弱者に対しての行政の関与をどうするか決めておいてほしい。

自然災害が起きた時、自分自身で気をつけています。

緊急時にヘルパーやボランティアがどれだけ集まるのか不明ではある。普段から障害のある人への理解、近所に住んでいる高齢者への介護方法など、地域住民間で理解しておく必要があると考えられる。行政の支援も必要である。

落ち着いてきたときに徐々に自宅、あるいは他の施設などへの移動手段とそういった戻られた方々への連絡網の作成。

ヘルパーさんの支援を願っている。

学校教育として、幼い時から譲りあう学習を重ねておかないと、いざの時は何もできません。日常生活の中で誰もが軽いケガの処置や安全な場所への移動、手を貸すことを身につけること。

緊急時の病院を早く確保してほしい。

現在両親と一緒にですが、一人になった場合が不安です。共に障害者同士が協力し合うことが一番大切で、あとはまわりの支援を待ちたい。

実際に被災した経験がないので、何とも言えませんが、二次的災害をできるだけ防げるように準備しておくこと。あらかじめ必要な情報を得ておくこと。それをみなで共有しておくことが大切だと思います。

各地域の消防署と連携を図り、事前に障害者を持った家庭を把握しておいて欲しい。

障がい者や高齢者などどこに住んでいるとか、どの程度助介が必要かなどを役所あたりで把握して欲しい。

道路のバリアフリーを優先的に整備して欲しい。車イスで移動できるように。

助けてくれるのはありがたいのですが、興味本位で見に来る人も中にはいる。

ボランティア(災害支援ボラ)は平時より登録しておくとうい。

災害時にどこに助けを求めてよいか、わからない。ネットワークがあれば、電話は混み合っていて使えるのだろうか?家族や知人の安否が迅速にわかれば。

ヘルパー派遣はどうなってしまうのか。

新しく作られる学校や公共施設は高齢者や障害者が避難生活できるような設計をすべきである(スロープ、トイレ、風呂など)。

普段カテーテルを使用しているが、医療行為になるので、本人または家族以外使用できないが、手に負傷を追うと自分でもできなくなるので、緊急時にヘルパー支援で介護ができるように行政は対策してほしい。

地震発生2時間後に、地域の人が施設に自家発電機を持ってきてくれた。普段からの地域とのつながりが重要。

私は発電機を用意したが、福祉用具を使っている人には、停電用に電力会社などから発電機の貸し出しなどのサービスがあったら良いと思います。(ひょっとしたらもうあるかもしれませんが)

市内全体に災害時、緊急時対策に向けた研究と支援策が検討されていないので、それに向けた予算確保と支援策を行う必要がある。

役所は全く当てにならない!ふだんのネットワーク作りが肝心です。

安否の確認と今何所に居るのかをいち早く把握できるシステムを作ってほしい。

風水害の場合は予知が可能だから、早期自主避難を誘導(介助)する体制の確立が望ましい。そうすれば、ポータブル・トイレの携行も可能と思う。以上の他に私のホームページ[HTTP://WWW.PSC.NE.JP./YOSHIMOTO](http://www.psc.ne.jp/~yoshimoto)(吉本 昭でも出ます)に「早期自主避難の勧め」(自然災害から命を守るために)とのメニューがありますので、参考にして下さい。

災害時の支援活動についてもう少し、国、県、各自治体の連携が欲しい感じがする。

災害に備えて障害者の様々なニーズを調査してほしい。情報を事前に知らせてほしい。

他者からの支援になるべく頼らない・・・という意識を持つべきだと思います。健常者とわずです。

行政機関が動けなくなるのは、分っている。回り近所も同様に動けなくなるのは、分っているのですから。

無論、対応がとれる障害の方、家族の方という枠です。寝たきりの方に言っているわけではないのです。

施設などに通所・入所している障害者の方は、避難訓練や、被災時の安否確認などもまだとれる可能性があるが、障害者団体にも属さず、地域に孤立しているような障害者は、地域の民生委員くらいしか把握ができていないと思います。

しかも、(特に郡部の)民生委員は、そのような障害に対する専門性も持ち合わせていないことがあり、市町村でそのような方々の把握と、支援態勢をしっかりとっていただくしかないのではないかと感じています。

一般の人にできるだけ内部障害を知って欲しいです。個人レベルで問題解決は困難、市や町単位でなく広域的な支援体制を確立したい。

公共施設、病院施設の耐震化などの防災と災害が発生した時の、状況に応じた対応を望みます。

支援を行う拠点を行政としてきちんと準備してほしい。行政に頼るのでなく市民相互の理解と協力によってお互いの無事を共有できる社会を作りたい。それには徳

育を充実させ、他人の人権を尊重し、自己の利益や権限を無闇に主張しない人格形成を全国民に徹底させることである。これは即ちノーマライゼーション社会に通ずる。物質的充足度はほぼピークに達していると思われる現在、必要なのは心の修練。軍国主義やファッションに結びつかない、利用されない真の修身教育が待たれる。それこそが障害者が健常者と同じ安全を得る最善の方法であると思う。

緊急時のヘルパー支援を行う拠点、体制を行政としてきちんと整備してほしい。

例記の通りだと思います、ALS患者の場合最重度の障害になります、ALS患者を理解したヘルパー等の確保を日頃から行政で準備して欲しい。

いざという時のことも考えて、隣り近所の人とはおつきあいをしたり声があればあいさつしたりしている。近くの人助けが一番現実的だと思う。

やはりヘルパー支援については体制を整えてもらえればと思います。また、障害があることで皆さんそれぞれ日常生活は違うでしょうから、それぞれに対応でき

るような相談機関があれば安心できます。
緊急救援介護隊のようなものを行政が作ってほしい。
民生委員、町会長、ご近所の最初の支援のための啓発と訓練、障害者などの非常時の通行(避難)への配慮[道路封鎖などでの障害者が使える公的施設の被災障害者への開放(公民館、集会所、障害者センター)]
自治会等では難しく、特に自治会等に向けての災害弱者の啓発が必要である。また個人情報となるが、地域に障害を持っている方がある程度程度いらいっしやるのかを緊急の場合に限り利用できる情報を持つべきである。
行政とは普段からのつながりが要望のみでなく双方向の繋がりを大切にすれば人間としてのつながりが深まると信じております。
実際、自然災害での避難経験が身近にもないので、何も有りません。
早く復興支援をして車イス住宅のような仮設住宅を作ってほしい。緊急時のヘルパー支援を作ってほしい。(行政とか市役所とかで)
災害時に障害者も生活できるように支援してほしい。団地にすんでいます、普段近所の人と付き合いがないから自然災害時は困ると思う、自然災害がおさまった後ヘルパーに連絡が取れるように行政としてきちんと準備してほしいと思います
災害時はみんな自分のことで精一杯、とはいえ障害者には一般市民とは違ったニーズがあるということを認識して、避難所等は一般市民とは別に用意するべきだと思う。
災害時の対応窓口を一般市民とは別に確保し、障害者の状況などのわかる職員(福祉部の職員)が迅速に対応できるようなシステムを作る。緊急に必要な補助具(例えば、松葉杖や車椅子など)は臨時に貸し出しできるようにすること。
普段からはなかなか難しいかもしれませんが、いざ災害が起こったときではおそすぎるので、やはり防災訓練などを通して、災害時のイメージ作りをした上で支援が必要な部分を具体的に考え、行政の部分は行政、その他の部分はその他で支援していけるよう連携していく必要があるように思う。
それと同時にユニバーサルデザインの町づくりをずっと言い続けていくことで、障害者にとっても住みやすい、ひいては災害時でも逃げやすく、くらしやすい環境にしていけるよう努力していく必要があると思います。
障害者の一人一人がどこでくらしているか、行政が正確に把握しておいて欲しい。そしていざという時に救援にいけるよう、市民のネットワークをつくって欲しい。
行政がいろいろなことを想定し、それに備えてほしい。行政側が事前に計画して食糧などの確保。居住するところの確保。
普段から精神病、精神障害、精神薬に対しての「知識」(専門家になっては困るのですが)を少しは持って欲しいと思います。そこから大事への備えもできるというものではないかと思えます。

団体意見

大きな施設には、消防署から来てくださって防災訓練をされますね。小さな作業所ではそれは無理ですので、せめて利用者さんに防災のお話でもしていただきたいです。
緊急時にこそ、みな協力、理解が必要なのですが、急に皆が理解しあえるわけではないので、日ごろから地域の人と交流をはかり、障害そのものを認めてもらうことが必要だと思います。
患者本人がパニックになった時、家族だけでは支えられないので、手助けがほしい(病院への連絡等)
安否確認等はどうしても近隣の力を借りることになるが、同じ市民にヘルプ体制や手話通訳者等の派遣を求めるのは、被災者同士では無理。県外からの応援、協力関係、システム作りが必要。
これから考えていかなければと思っているところです。いろいろと教えてほしいです。
医療的ケアを必要とする人への緊急サポート体制はぜひとも必要である。
きちんと予算の裏づけのあるセンターが日常的に幅広い障害者と関わりをもつ事で、災害時の安否確認を含め初動がスムーズに行なえると思う。
避難時のマニュアルを作ってほしい。
重度な障害者にとって、地域で生きていくことだけでもまだまだ困難がたくさんある中で、正直災害時にどうすればいいかまで、考えが及ばないのが正直なところでもある。
低所得の障害者は老朽化した住宅に住むことが多い。一日も早く耐震性のある公営住宅をそのような人たちに提供できるシステムを作してほしい。
連絡方法の知恵を借りたい。
非常時における生活支援をより充実させるために、個人用カード(障害特性等)を作成し、手帳のように携帯できるようなものを準備できたら、家族や身近な支援者がいなくても、とりあえずの対応はできるのではないかと(特に自分で伝えることのできない障害特性をもっている場合)。
緊急連絡体制をきちんと確立しておく必要がある。
近隣、町内、団体との交流を大切に。防災マニュアルの周知、確認、訓練も必要。団体とのネットワークづくり。
普段、防災に対する意識が低く、このアンケートを機会に避難経路の確認や訓練を定期的に行う必要を感じました。
昨年の台風で一番感じたことは、地域での助け合いの大切さです。特に被災直後は、作業所職員として利用者の救援をしたくとも、道路は寸断、電話も不通では状況把握さえも不可能となります。やはり、平素より地域住民に障害の理解を求め、いざというとき助け合える人間関係を作っておくことが必要であると思いました。昨年は、ゆめ風基金様より多額のお見舞い金を頂戴しましたこと、重ねて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

浸水マップとか避難場所の地図があれば前もって市の方で配布してほしい。

まだまだ勉強不足で今後努力していきたい。

参考資料として、別紙添付いたします。

1. 緊急防災対策に対する提言・陳情事項（大阪府・大阪市・羽曳野市）
2. 予想される「東海地震災害と在宅酸素患者対策」について
3. 災害時の声の伝言板 171

緊急時は自治体の枠を越え、迅速な対応がとれるよう、広く強いネットワークづくりが急がれる。

専門性の高い二次避難所の必要性和、セルフディフェンスの重要性についても認識を高める必要性を訴えていきたい。

前に市役所で、あなたの所は橋が落ちたら行けないので近所の人たちで何とかしてほしいと言われた。普段から近所とのコミュニケーションを持つためにも、福祉センターなど障害者や高齢者優先をやめて一般の人も共に利用できるようなした方がいいのではないのでしょうか。

誰もが被災しているので、「障害者がいる」ということすら忘れがちになる。実際には障害者には健常者以上に苦しい生活を強いられたり、ストレスがたまりやすいので色々な配慮がほしい。声をかけてもらうだけでもずいぶん違う。

災害時の聴覚障害者向け緊急ネットワーク構築が必要。

- (1) 普段から、救出・支援チームを組織化しておいてください。(2) SOS発信機器を貸与しておいてください。(3) 救援物資が(食べ物・水等)障害者に届くようルート作りをしておいてください。(4) 普段の生活の中で自然災害発生時の対応として、食料・水・ガスボンベ・ラジオ・暖房衣類・懐中電灯等の準備をしておくよう、周知徹底してください。(5) 地域の中の避難場所を住民に知らせておいてください。特に地域の避難場所は、バリアフリーになっているかについて、障害当事者に知らせておいてください。(6) 地域内で、自然発生対応の実施訓練を行ってください(障害者も参加して訓練を行う)

大混乱の中で多くのことはとても望めないと思うのが現実だろうと思われる。だれもが被害をこうむっているときに、如何に自力で動けるかということに尽きる。まずは、個々がどのような避難をすべきか、意中におき、周辺の人々に知ってもらい、その地域では何が不都合なのか、(消防の人々等に対しても)アピールしておくべきかと思う。

災害の中でも特に地震についての予知の遅れ等不安材料が多い中で安全に避難できるシステムの構築をしてほしい。

有事の際に障害者は行政が助けてくれると思っているが、実際は近所の人、ボランティアの人が主になる。その意識の差をどのように解消するのか？

福岡北部は地震安全地帯といわれていたもので、作業所として対地震のマニュアルなど作成していなかったし、他の防災についても意識は低かった。防災全般に関する指針やマニュアル作成の必要がある。

平素の啓発が大切です。災害は忘れたころにやってくることを市民に定着させること。

水害は通所者が帰ってしまった夜間のことだったので、特に書くことはありませんが、日頃、災害については方法、連絡、避難場所等についてよく話し合っています。「いざ」となったとき、実際に立つかな?という思いはありますが、毎日のことが大切です。

生活ケアに必要な医療物品などが、医師の処方がなくとも近くの薬局で提供できるようにしてほしい。24時間呼吸器をつけていると家族(ケアができる人)が片時も離れることができない場合が多い。家族がいるから大丈夫ではなく、家族を含む支援体制を考えてほしい。停電復旧までに、相当の時間がかかることが予想される場合に備えて、自治体が自家発電設備のある近隣病院・公共施設のリストを作成し、希望者には、緊急時に駆けつけた場合、電気供給してもらえよう、前もって橋渡しをしてほしい。

人工呼吸器使用者に限らず、酸素を必要とする人は少なくない。酸素ボンベ配達業者が道路寸断などで、ボンベを届けられない場合の手立てを自治体・消防・警察等関係機関も入って検討してほしい。

電力会社によって、在宅酸素使用者・人工呼吸器使用者など、生きる上で電力が欠かせない人の登録制度(停電に関する情報提供や計画停電の際の発電機貸し出しなど)を実施しているところと、実施していないところがあるようだ。どこの電力会社を利用しているても、そのような格差が生じないように、国・自治体・電力会社の全国組織みたいなもの一体となり、取り組んでほしい。

情報網をきちんと整理しなければ錯綜する情報に惑わされてしまう。

もっと行政が親身になってやってほしいと思います。被災したときのシミュレーションができる機会が必要かもしれないと思います。福祉避難所は災害時、誰もが被災者であるため、障害者のためのみのものは必要ないと思う。が、総ての人にすこししやすい環境を整えられれば必然的にバリアフリーになるはず。平時からの環境の構築をコミュニティで蓄積することも必要では。

防災時のみならず平常時でも理解し難いと思われる精神障害者。まずは平常時の啓発活動と地域のネットワーク作りを力を入れていきたい。

災害は広い範囲で起こりうるものなのでまわり(地域)との協力は不可欠だと思います。災害の種類によって避難方法、準備物が異なるのでしょうか。

個人情報保護法が施行されたため、今後、障害者も含めた被災者の実態把握が一段と難しくなる場合が考えられる。国や行政の速やかな対策も必要だが、障害者自身も、緊急災害時の個人情報の取り扱いについて、どのように取り扱ったら(取り扱われたら)よいのか、議論を重ねていくことが大切である。

